

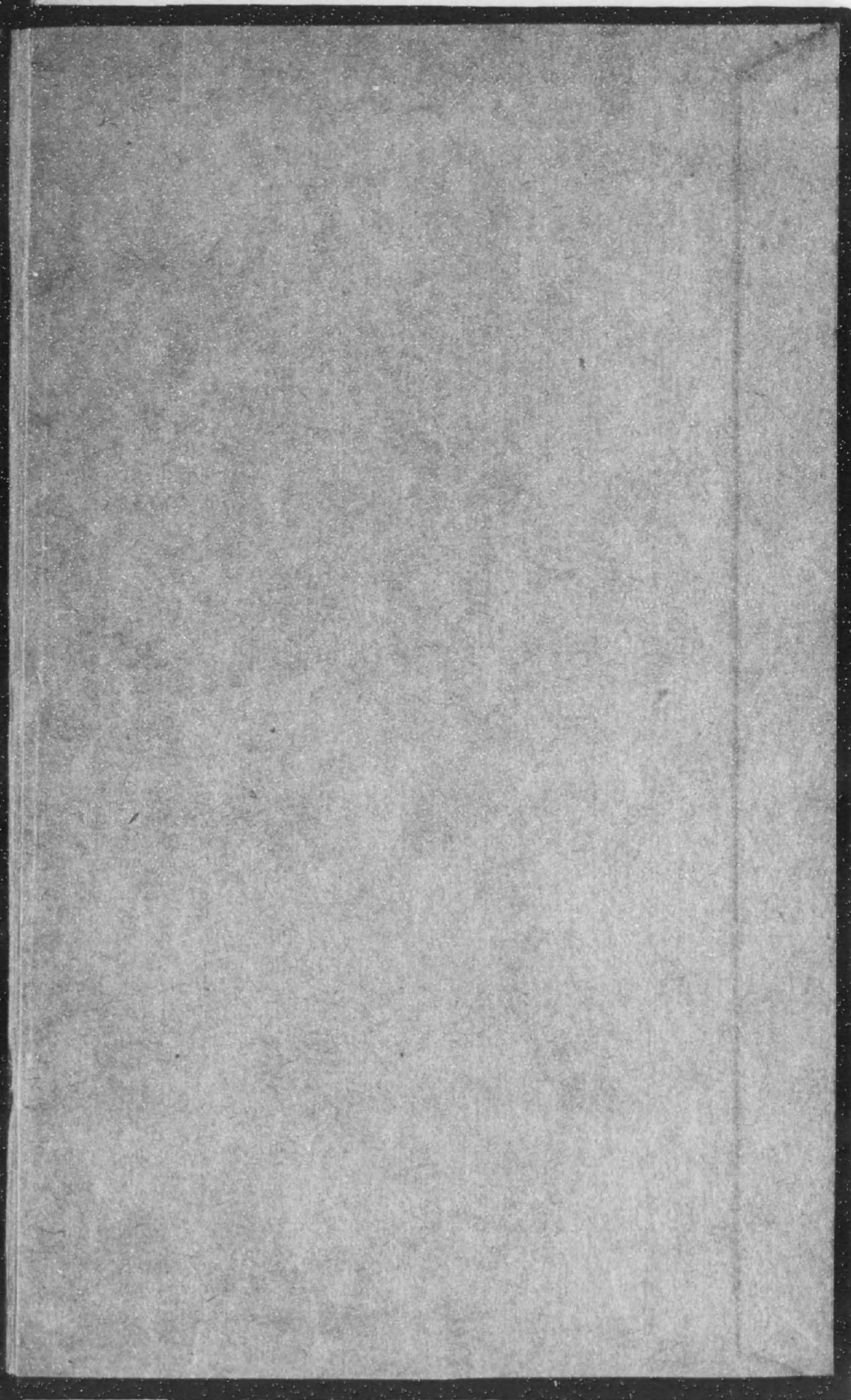
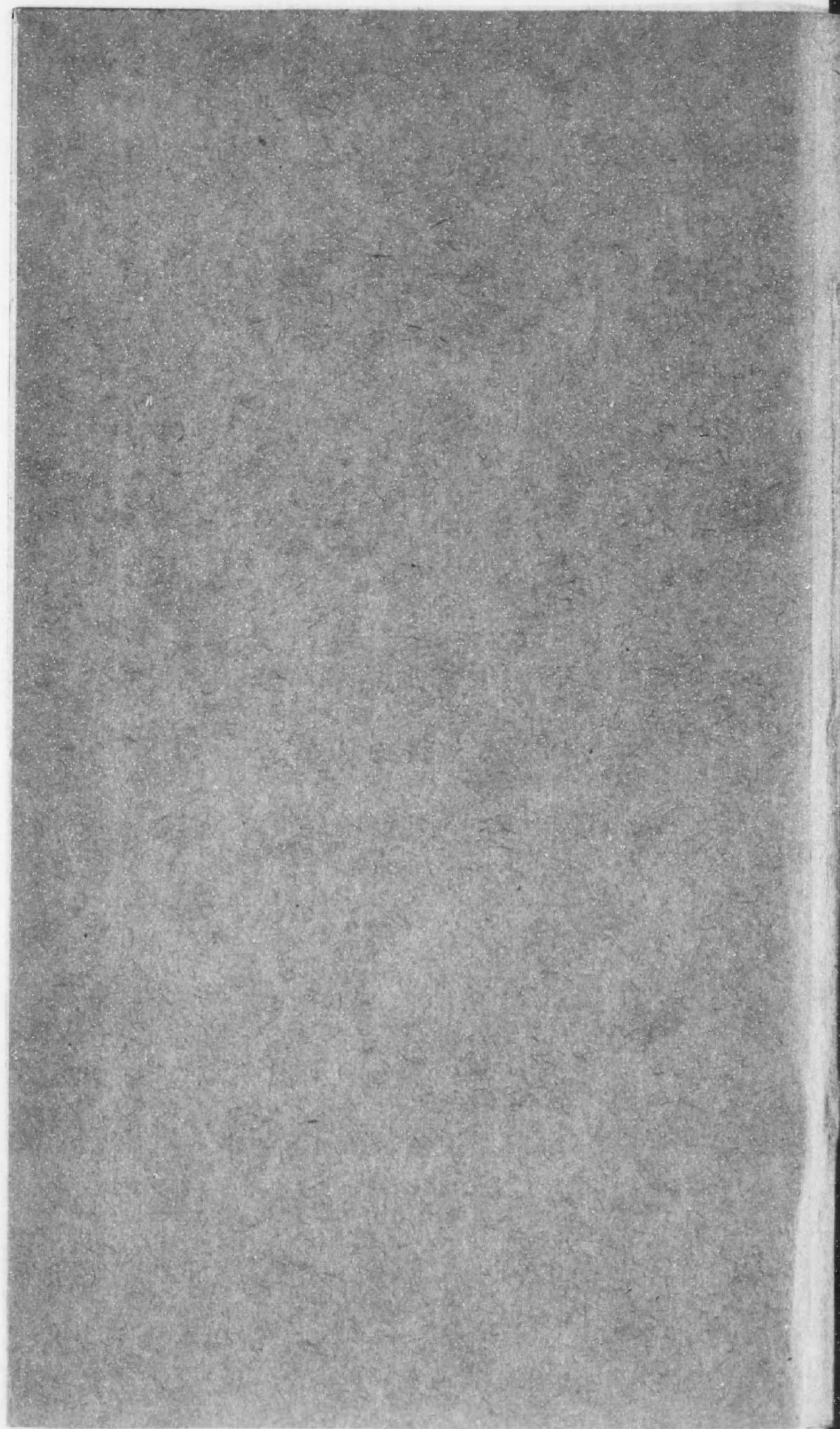
511

87



始







新安

國論

村田四郎述

大正
14. 3. 4
内交

文學博士 辻善之助先生序

足無くして争か千里の道お行かんや、返す
返す此書お常に讀ませて御聽聞あるべし。
度々になり候ならば心附かせ給うこと候
なん。(日蓮)

序

511-87

斯篇佛教信仰を説いて、現代國民の宗教心缺乏を嘆じ、家庭に於ける宗教教育の必要を論じて、學校及社會教育に及ぶ。或は耶蘇教を難じ、社會主義を評して縱横八面鋒、向ふ所殆敵なきに似たり。其の餘勢迸つて、共和主義勞働爭議人類愛特種部民男女同權夫婦問題産兒制限等に及び、恰も奔馬の空を馳するが如し。而して全篇到る所日蓮上人の國家主義を高唱す。新安國論と題する所以また此の所にある歟。其筆力は未だ日蓮上人の疊を摩するには至らずとするも、國を思ふの熱誠は即ち上人に譲らざるものあるを覺ゆ。上人の國家主義については予も亦共鳴を禁ぜざるもの一人なり。この點に於て予は村田君と其の歸趨を同じうす。乃ち需に應じ喜でここに一言を題す。

大正十三年十一月

辻善之助

自序

今や錯雑せる海外の思潮を悉く寄せ來つて極東日本の岸に一大波瀾お畫けり。内に確乎たる信念なく外に異端お識別するの卓見なき吾が國民わ思索紛綜暗夜に燈火お失いたるが如く人皆其の歸趨する所お知らず。此の時に當りて識者よく民心お操縦して依るべき指針お示さずんば舉世混亂再び收拾すること能わざるに至らん、皇國の前途また危い哉。

世わ皆正に背き人わ悉く惡に歸す、故に善神わ國お捨てて相去り聖人わ所お辞して還らず。是お以て魔來り鬼來り災起り難起る。所詮天下泰平國土安穩わ君臣の樂う所土民の思う所也。夫れ國わ法に依て昌え法わ人に因て貴し、國亡び人

滅せば佛おば誰か崇むべき法おば誰か信すべき。先國家お祈りて佛法お立つべし。汝速に實乗の一善に歸せよ、然らば則ち三界わ皆佛國なり、佛國それ衰えんや、十方悉く寶土たり、寶土何ぞ壞れんや。國に衰微なく土に破壊なくんば身わ是れ安全にして心わ是れ禪定ならん。此詞此言信すべし崇むべし云々。

予の言わんとする所も亦斯の如し。

日蓮が頭にわ大覺世尊替らせ給い、吾等が頭にわ日蓮宿らせ給う。吾等が前にわ刀鋸鼎鑊と雖も敢て懼るゝ所にあらず、げにや遊行するに畏れなきこと獅子王の如しと、醒めよ同胞、立てよ妙宗の徒、宗祖逝きて茲に六百五十年久遠の使命お繼ぐべきものわ誰ぞ、救世の實お擧ぐべきものわ誰ぞ。諸子聞かずや彼の森に毒鼓の高

鳴れるお。

聖誕七百年祭身延に詣て、

祖師堂に鶯啼けり夏木立

附記 本書收むる所多くわ大正九年以來尾道市妙宣寺に於いてなしたる談話の骨子にして主として平易簡明なるものお選べり。猶家事匆忙の間に筆お執りたる爲措辭妥當お缺くもの多く新しき假名遣法と共に讀む人の煩勞多かるべし特に是れお謝す。書中引用の文書わ特記なきものわ總て日蓮聖人の御遺文による。

新安國論目次

◎ 佛様とわ……………一

◎ 佛様わ現實に拜まれるか……………三

◎ 盲人と千里眼……………五

◎ 寫眞の陰畫……………八

◎ 偶像教の辯……………九

◎ 平等主義者の子供……………二一

◎ 放埒と秩序……………二四

◎ 誤れる教育と労働爭議……………二六

◎ 人の性……………三〇

◎ 物わ善意に解せよ……………三一

◎ 私の告白……………三三

- ◎ 宗門のお米の御飯……………三九
- ◎ 天孫降臨……………三三
- ◎ 支那の鳥と日本の鳥……………三六
- ◎ 西洋カブレ……………三七
- ◎ 舶來思想の直譯……………四〇
- ◎ 折伏と大慈悲……………四三
- ◎ 父なし兒……………四五
- ◎ 喫煙と信仰……………四八
- ◎ 店員の喧嘩……………五〇
- ◎ 大日本帝國と絶對主權……………五三
- ◎ 人間の定義……………五七
- ◎ 衆生の恩……………六三
- ◎ 祈禱と回向……………六四

- ◎ 謗法の現罰……………六七

彗星語

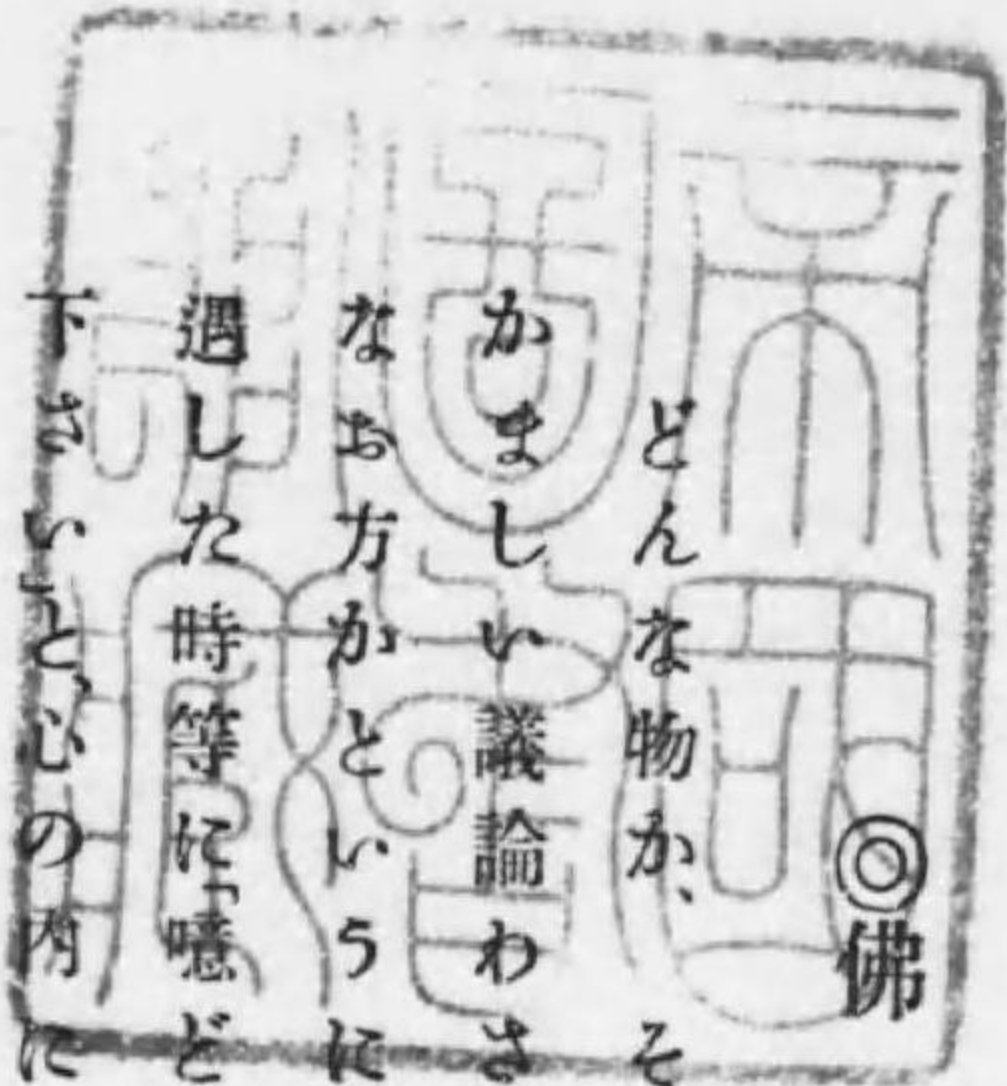
- ◎ 予わ彗星……………七五
- ◎ 燕わ南國の鳥にあらず
- ◎ 醫學の進歩と蠻人
- ◎ 天壽
- ◎ 三世とわ如何
- ◎ 火星と人類
- ◎ 玉石混淆
- ◎ 金欄の切
- ◎ 新しき村
- ◎ 神經とわ

- ◎ 星辰の運動
- ◎ 無限の道程
- ◎ 蟻物語
- ◎ 賣名と匿名
- ◎ 至上とわ私情のみ
- ◎ 義士の夢
- ◎ 乃木將軍の死
- ◎ 獸欲か人欲か
- ◎ 社界主義者の預金
- ◎ 頑固ということ
- ◎ 平民主義と尊嚴
- ◎ 順逆の同情
- ◎ 犠牲的精神

- ◎ 新小説と無政府
- ◎ 産兒制限論について
- ◎ 特種部民
- ◎ 水力電氣と火力電氣
- ◎ 裸體畫と彌次代議士
- ◎ 洋樂通
- ◎ 山縣公と雪嶺博士
- ◎ 新しき詩人
- ◎ 法律の運用
- ◎ 學者と記者と辯護士
- ◎ 草根木皮
- ◎ 美人觀
- ◎ 囚われたる靈術

新安國論

村田四郎述



佛様とわ

どんな物か、そんな馬鹿げた物わ居ないと云う人が大方であります。私わや
かまし議論わさて措いて、佛様確に在るものと信じて居ります。でわどん
な方かというにそれは吾々が非常なる大患に犯された時、又わ一大悲惨事に相
遇した時等に、噫、どうか今一度達者な體になつてみたい、どうか此不幸者お御助け
下さいと心の内に何か或る者元よりお醫者でもなく父母妻子でもなく然も自分
よりも優れたる者に對してお願なり希望なりお起すことがあります。此對照物
お私わ佛様だと申すのであります。又春に花開き秋に稔る、因果という大法則お
掌る絶對の支配者、これが即ち佛様なのであります。

佛様とわ

斯う申しますと、乃公わ年百年中真正直に蔭陽なく働いて居ても不幸續きで金なら一つ儲からない、然るに彼奴わ悪事のやり放題で居て安穩に暮して居る、善因善果じゃないでわないかと批難する人があるかも知れません。此所が即ち佛様の御教の勿體ない所で世の中の事が總て人間の経験や推理力で明瞭になれば、神様や佛様わいりません。人智お以て判断し得ない世態わどうしても三世の因果、即ち前世の宿因の結果としか考えられませんが、それお思えばやがて来る日の結果、引いてわ未來際迄もの苦しみが恐しくて悪い事などわ出来るものでわありません。

耶蘇教の所謂神の攝理等と云つて居たのでわとても此邊わ説明のつかぬ問題であります。

吾が己心の妙法蓮華經お本尊とあがめ奉りてわが己心中の佛性南無妙法蓮華經と呼びよばれて顯れ給う處お佛とわ云うなり。

佛性わ木の中の華の如く隠れて見えすと雖も佛性の蓮わ衆生の身内に納まれば、是則ち妙法蓮華の當體なり。

所で次に起きる疑わ。

◎佛様わ現實に拜まれるか

と云う問題でありますが、如何にも拜まれます。然し此汚濁せる肉眼お以て佛様お見ることわ出来ません。心眼お開いて拜する時に始めて大慈悲のお姿に接し得るのであります。斯く申すと、甘く逃げおつた、といわれるかも知れませんが、心眼とわ心の眼で吾々わ食いたい着たいと云う様な色々な肉體の欲望の爲にこの心眼お開くことが出来ないうまでであります。

壽量品に「衆生お度せんが爲に方便して涅槃お現せども而も實わ滅度せず、常に此所に住りて法お説くと仰せられた一節お拜誦する毎に私わ歡喜の涙に啜ぶのであります。

淨土といひ穢土というも土に二つの隔なし(中略衆生というも亦かくの如し。迷う時わ衆生と名付け悟る時おば佛と名付けたり。譬ば閻鏡も磨きぬれば玉と見ゆるが如し。

佛様わ現實に拜まれるか

世の中の人々餘りに自己本意で物事を判断するからいけません。自分で解らぬ事や見えぬ事他人にも解らぬものと早合點してしまいましたが、これが大きな間違であります。吾々よりも低能な人があると同時に亦世の中に吾々より勝れた人物が澤山にあつて、其の人人々矢張吾々と同様につまらぬ人間だと思つて見て居る場合が多いのであります。

人間に靈と肉とがあるという一事々皆様に問題にならぬ程よくお解りのこととありますが、この事々四つや五つの子供に得心の行く様に話さうとした所で出来ぬ相談であります。幾ら骨を折つて見ても先方えわ更に通じません。子供わ子供相應な判断力ある事しか思つて居ないのであります。

先年臺灣の蠻人が東京見物に来て、初て自動車を見た時にあれわ何かと尋ねた所が、大きな犬であると答えたそうです。非常に面白い観察でありませんか。是れ畢竟彼等にわ此方面の智識がないから自動車といふ器具の存在をお認め得ず、彼等の判断力の範圍よりして、地上を走るものわ悉く動物であると計り考へて居るから自動車も犬の一種であると思つたのであります。解つておる吾々より見

蠻人と自動車

れば誠に愚な話であります。然しこれが他所事でもありません。佛様の御存在をお認めぬというのわつまり人間の事ばかり考へて居て佛様の世界に對する知識がないから、時に有難い佛様のお話お耳にしても、是れ何か精神の眩惑かお化の話かの様に思つて居るのであります。

幼子わ母をお知らず母わ幼子をお忘れず。釋迦佛わ母の如し、一人わ思えども一人思わざれば或時わ遇い或時わ遇わず。吾等佛をお思うにいかでか釋迦佛見え給わざるべき。

此所わ大いに省みねばならぬ事、更に解り易い例お引きますと。

◎盲人と千里眼

千里眼(天眼通)という事も随分長い問題で、學者の多くわ殆ど是れをお否定して居ますが、これも矢張自己本意の妄斷に過ぎぬ事でありまして私等わ千里眼もあるもの亦何人にも出来得るものと斷言して憚りせません。現に私の昵近者の中にも亦私の家族にも是等の現象お度々見ることがあります。

第一彼等學者が唯一のたよりとして居る人間の眼というものの實に、つまらぬ物であります。強度の近視眼の人に比べたならば吾々も此人に對してわ低級の千里眼まづ一里眼位な價值を充分にあります。一例お舉げてお話致しますと、只今ロンドンにも大火があり、更に亦此近くにも火災があると假定しますが、何れにしろ現在火災のあるという事實にわ二つながら相違わありません。所で近所の火事わ見えるから眞實でありロンドンの大火わ見えぬから嘘であるとわ申せません。

畢竟人間という肉體お離脱し得ない吾々の肉眼にわ距離とか障害物とかの關係上ロンドンの火事わ見えぬだけで、事實わ旺に燃えて居るのであります。此遠く距つたロンドンの大火が或る一部の人、即ち世にいう千里眼に解つた所で何の不可思議もないでわありませんか。

將來の事にしても解る解らぬとわ時間の問題であります。此時とか物とか距離とかいう事に超越すれば自然將來の事も遠方の事件も解るわけであります。

前にも申しました通り、人間の兩眼程あてにならぬ物わありません。水中に立

群盲象を
評す

てた棒が曲つて見える位わまだしも、誰そ彼時になりまして戸外の景色が障子の硝子越にボンヤリと見えて居る時に座敷の電燈がバツとつきますと其のまゝ庭の景色わ見えなくなりまして今度わ自分の影が寫つて參ります。誠につまらぬ話でわありませんか。現に慥に見える筈の庭の樹木でさえ電燈一つの爲に見えなくなる様な肉眼であります。群盲象を評するの譬で、こんな眼の所有者でありながら勿體ない佛様お有るとか無いとか彼是議論するのわ根本に於いて間違つて居ます。此所に世界の人が全部盲目であるとして、其所え私共が參りまして、洋上遙に進んで來る船舶お見て其の入港お彼等に豫言したと致しますか、此場合盲人共わ自分に解らぬから村田の云ふことわ詐である、村田にわ眼という機關わない等といったとすれば誠に馬鹿氣た話であります。然し盲人の立場としてわ無理からぬ議論であります。されば吾々も早く心眼の盲お開いて笑われぬ様に致さねばなりません。

佛の所説の經の因縁及び次第お知つて義に隨い實の如く説かん。日月の光明の能く諸の幽冥お除くが如く斯人世間に行じて能く衆生の闇お滅す。

◎寫眞の陰畫

更に解り易い一例お舉げると寫眞の乾板であります。是わなかなか介厄な品物で、感光致しますから暗室以外でわ取扱わ出来ません。従つて乾板本來の色お見た人わありますまい。

儲此乾板に或物體お撮影致しましても、是お暗室に持つて入つて色々な藥液お調和して現像定着お終らねば何等の畫像も決して表れません。所で今日の人間の視力でわ撮影お終つた乾板と新しい何物おも寫してない乾板との區別わ暗室の赤い硝子窓の下に於いて絶対に識別する事は出来ません。或方法即ち現像お行つて始めて其所に撮影したものであれば畫像が現われるに過ぎませぬ。これとて現像お行わぬ先にその乾板お光線にあててしまえば如何なる方法お以てしても、最初に寫された畫像わ未來永劫決して現われることなく、暗より暗に葬り去られるわけであります。此場合に於いてこの乾板にわ畫像わないものであると一概に斷定が出来ますか。現像の方法お知らぬ間わ乾板わ如何なる事おしても

人の影形など寫す様なものでなく、卵色の硝子板に過ぎませぬ。この中から花も恥じろう美人の客姿が現われたり秀麗なる山河の景色が出て來たりするとわ夢にだも想像の出來ぬ一大不思議であります。

千里眼とてこれと同様で吾々人間という乾板にわ宇宙の森羅萬象が總て影お映して居るわけで、これが印畫お作成し得ない事わつまり現像の方法お知らぬというに過ぎませぬ。

催眠術

催眠状態に入つた際に平素全然記憶にない幼年時代に見た印象が目前に彷彿する等という事實に徴しても如上の説わ明白であります。この問題に關してわ今少し申し上げたいのであります。少し岐路に入りますから他日に譲ることと致します。

◎偶像教の辯

或耶穌教の信者が佛教わ偶像教である、と如何にも非文明な様に批難致しました、是わ自家撞着の大愚論であります。こんな理窟で行けば世の中の事わ悉く

偶の字に外なりません。第一彼等の口にするゴッドという言葉にしる別に神様がゴツとかドとかいわれるからゴツドというのでわなく、是も彼等が勝手にゴツドと命名したまでのこととて、つまり文字に偶した偶字なのであります。耶蘇教徒がゴツドが有難いと言つた所で何も英字のGの字とOの字とDの字とが尊いのでわありません。この三字も綴合せ具合でわドツグ(犬)ともなります。

吾々わ文字に偶して神佛と申上げる外に更に形にも偶して佛像として更に更に親みお深くするわけなのであります。

天にましますゴツド等と漠然たることおいうよりも佛壇としてお祭り申した方が家庭の人々にも中心お興え一層印象お深くするわけであります。彼等が教會お有するの畢竟物事にわ中心點が必要である事お證明するものであります。何も佛様にした土塊や木片が有難いのでわなく、佛様と偶してある點が勿體ないので紙幣にしてもあの紙片に價值があるのでないことわ子供でも承知して居ります。偶像偶像と嘲る泰西人が却つて銅像の本場であることわ面白い皮肉でわありませんか。

死屍お親
つ者

死者お祭るにしても色々な文句お並べるよりも寫眞の唯一葉でも出して安置することが如何程追憶お新にし親しみお深くするかわ申すまでもありませぬ。此場合寫眞わ一の紙片に過ぎぬ等と野暮なことおいう人がありませうか。つまり吾々佛教徒わ佛様のお寫眞お所持して居るのであります。彼等耶蘇教徒にわそれが無いのであります。したならば神様に對する信仰上親しみの點において大なる相違お來たすわけとなります。彼等の筆法で行けば日頃懐かしい肉親の親でも亡くなつて見れば、死屍わ長くおくわけにわ參りませぬ直に茶毘に付してしまします。して見れば親として尊いのか肉體でなく其の靈である、だから生前親の體の一つや二つ撲つた所でさしつかえ無いという様なもので、世の中の事わ理窟計りでわ通れませぬ。

◎平等主義者の子供

佛法の因果の教が解つて居れば、社界わ至極安穩であります。近時社界主義だの共產主義だのという危險論者があるの畢竟因果の大法則お知らぬからの事、

であります。よく考えて見ればこんな馬鹿らしい話ありません。

大體吾々が此土に生れて来た状態を看ても決して平等のものでありません。貴方にしろ私にしろ、何も日本を生まれねばならぬ約束もなく亦何々家へ生れねばならぬ理由もないのに夫れ夫れ色々な家庭に生れ享けてかうして暮して居るのであります。それでありながら自分の内の貧苦等も不満に思うのわ得手勝手なる理窟で、そんな不足という暇にドシ／＼働いたらどうです。

次に一步譲つて世の中の財産も頭數に應じて平分したとした所で、分けた當初わ至極結構であります。同じく五丁歩の田畑も貰つたにしても體力の相違、勤惰の如何で直に貧富の差も生じます。それでなくても病氣する人若死する人、子供の有る人無い人が出て来て一年ならず平分した財産も全く不平均になつて參ります。

最も自然に、最も平等にして蒔いた一粒より生ずる稻にしても秋の收穫に必ず多大の差違が出来ます。まして生れながら不平等である人類に他動的なる平等が永續する筈のものでありません。

私わ主義者の人々に次の如く言つてやり度いのであります。「妻を娶ることわ君等の自由である。だから君等わ理想通り立派な女と結婚して、最も自由に君等の希望通りに一兒を擧げて見給え。そわ君等の理想とする自由であるから定めて賢い強い有福な子供が生れて來ることであらう。此の誰に遠慮もない何等束縛を受けぬ自由な易い目的が萬々一實現出来ぬ様な事ならば其日限り下らぬ他人のお世話迄することわ止し給え」と。

吾を生みたる母の由來も知らず、生れ受けたる吾身も死の終も知らず。

嗚呼受け難き人界に生れ受け會い難き如來の聖教にあい奉れり。一眼の龜の浮木の穴に會えるが如し。今度もし生死の絆も切らず三界の籠禁も出でざらん事悲しかるべし、悲しかるべし。

思えば一夜の假の宿も忘れて幾くの名利もか得ん。又得たりとも是夢の中の榮珍しからぬ樂なり。只先世の業因に任せて營むべし。世間の無常も悟らん事わ眼に遮り耳に充てり。雲とやなり雨とやなりけん。昔の人わ只名のみ聞く露とや消え煙とや登りけん。今の友も亦見えず、吾何時迄

か三笠の雲と思ふべき、春の花の風に随い、秋の紅葉の時雨に染まる是皆長らえぬ世の中のためしなれば法華經にわ世わ皆牢固ならざること水沫泡焰の如しとすすめたり。

◎放埒と秩序

此節わ一種の流行の様には自由だの平等だの個性の尊重だのといふ事が唱えられますが是を寧ろ放埒我儘、極端にいえば野獸性ともいふべきもので決して願わしきものでありません。

人類が他の動物に勝れて居るといふ事、秩序節制があるからであります。同じ動物仲間でも蟻とか蜜蜂とか秩序ある共同生活をして居りますから生活上他のものに比して餘程安穩であります。

町の風呂

或日のこと町の風呂屋へ行つて居りますと田舎のお爺さんらしい人が「こんなにお芋お洗う様に混雑して居ても人間の有難さに喧嘩の一つせんで済むが、犬や猫であつたら大變な騒ぎでせう」といつて笑いました。誠に簡単な一語でありま

すがよく人類共存の滋味あたたかみを評して居ります。人間の有難い點わ此所にあるのであります。

それから自由といえは山野に生立つ草木ほど自由のものわありませんがこれとて仔細に觀察する時一寸も願わしき生活わして居りません。弱い木わ大きな樹の下敷となり後に生ひえたものわ葉蔭になつて悲惨なる繁殖をして居るのであります。

これで見ても自由放任という事が必ずしも麗しき最善の理想其ものでなく却つて排析すべきものである事が分明致します。

如斯大自然の自由が必しも理想的のものでないとすれば人為的自由開放わ一層醜惡唾棄すべきものに相違ありません。

宇宙の森羅萬象に假令靈的共通を認め得るとしても外形境遇に於いてわ各人の面容の相異なるが如く非常なる差別があるのであります。

不可入性
物理学上の法則に二個の物體が同一場所を占有し得ない「不可入性」があると同様に人類社界の上にも自己と他人とが別個であるからにわ其所に嚴然たる區別

があります。此區別こそとりも直さず人人が生れながらに享有する各人の因縁關係でありまして、此先天的に相違する境遇にお互に自覺して努力することが即ち社界の秩序であります。

彼の社界主義者等といふ者わ自分が此土に生れ出づるに際し既に業に因果の大法則に支配せられて居たといふ事實、換言すれば何故彼等があんな下らぬ不平お主張せねばならぬ様なさもしい人間として生れ出たかといふ根本の道理お辨えぬからであります。

彼等の主張する所わ丁度非常に醜く生れた女が、自分の顔と美人の顔とお平均して十人並の器量にせうと努力すると同一でとてものこと出来ない希望であります。こんな女わ自分わ自分だけに紅白粉お買つて来て自己に相應しき最善の美容法お講じたらよいわけであります。

◎誤れる教育と勞働爭議

個性尊重といえは何だか麗しい言葉の様に聞えますが、是お解り易くいえは人

主義者
醜人

間本能の満足お得せしむること、悪くいえは肉體欲の發揮とも申せませう。

性善説とか性惡説とかわ別問題として假令性わ善なるにせよ肉體お具備する吾々人間わ克己修養といふ事がなくてわ殆ど野獸と異らぬ結果に陥ることわ蠻人お見ても明白なる事實であります。

翻つて現代の學校教育お見ますに果して何お道德の基礎として居るか頗る疑わしいものであります。小學兒童が學習する所は吾々の時に比較して随分廣汎なるものでありますして宿題だの何だので可なり忙しうにして居ますがそれで居て卒業の後手紙一本算盤一つ完全に出来る子供わ殆ど居りません。こんな風でわ幾ら義務教育年限お延長してみた所で一升のお酒え二升の水お加えてお酒が三升になつたといつて悦ぶ様なもので何の甲斐もありません。まして教える方で生徒が出来ても出来なくても父兄の鼻息お覗つてオザナリ的に年限が來れば卒業證書お渡すといふ有様でわ益々以て學業成績わ低下するより外ありません。

然し是わ教師の罪にあらずして社界父兄の責任であります。彼等わ教師が少

し嚴格であれば直に人權云々という様な問題も提唱して教師も攻撃排斥致します。猶又社界は是等教師に對して酬ゆる所薄く求むる所實に過大なる結果相當修養ある年頃の教師も得ることが出來ず爲にわ時々教師にも問題の人物が現れるわけなのです。

小學教育
革新の必
要

この現状において爲政者たるもの如何なる國費の犠牲を拂つても皇國萬年の安泰を計るためにわ國民の苗代である小學校教育の爲に一大革新も施さなくては遠からず誠に寒心に堪えざる不祥の結果も來たすであらうと考えます。

偕前に戻りまして個性尊重ということも兒童教育上重大問題でもありますが、これも解釋も誤つてわなりません。天真爛漫たる少年少女の特性も傷けぬ様に培つてその天才の開發に努めてやらねばなりません。彼等もして放縱なる自我も恣にさせて何等節制も加えぬという事は大なる誤りでもあります。庭で遊戯する時も教室の中も區別のつかぬ程騒ぎ廻らせたり、どんな惡戯もして居ても苦いこと一ついわけ様でわ。ろ子供も墮落せしめて居るのみならず却つて國家の基礎も危くして居る様なものです。今日隨所に起る勞働爭議の素因も多くこの幼

時の教養にあるのです。

樂おして金を譯山に儲けたいのわ誰しも望む所でせう。それでなくとも一人前になれば相當理窟もいふものに子供の時からこの我儘にさせる様な個性尊重教育も施しておいてそれが後年色々な厄介な要求で問題も惹き起して社界の耳目も衝動せしむるのわ必然の結果と申しませう。

其所で私の希望するところも教育家に宗教心の必要つまり信仰のある人も欲するのであります。宗教心といつた所で禮儀作法や風俗慣習的に自家相傳の宗旨によつて佛事も行ふのでもなく亦何も諸行無常も感じたり經文も暗誦したりするのでわなく神佛も親しく驗現して法悦に浴し自己信仰の歸趨する所も覺ることおいふのであります。

宗教を
法に
あ
ら
ず
作

従つて自己の信念の下に子弟も教育するに就いてわ何事によらず間違つた悪い事も遠慮なくドシ／＼膺懲して行くつまり可愛兒にわ旅もさせよで愛溺することが眞の愛でもありません。如斯して眞の人間を作り眞の大日本帝國國民も養成し得るのであります。然して此大目的達成の爲に俱に活動して頂きたいもの

徒眠れる緇
わ神官僧侶であります。今日の緇徒が單に葬儀執行人たることお以て甘んじて居るのわ誠に歎かわしき次第であります。

杭州南禪寺にて

伽羅かおる雨の御堂にたたずめば

禪の若葉に知らぬ鳥鳴く。(正氣)

◎人の性

世に貧民窟等といつてとかく凶悪なる人物の現れやすい住居お通る度に街路上に無邪氣に遊んでる澤山な子供お見てわ私わ次の様に思い浮べるのであります。このあどけない子供に如何に想像お逞しくして見ても未來の強盜や殺人罪お聯想することわ出来ません。誠に懼るべきものわ不完全なる家庭の教育であり、必要なるものわ因果お説く完教尊崇の精神である。氏より育ちとわこの邊の事おも指摘したものであらうと。

翻つて吾身お思えば慈母の温き手に懷かれた幼時、假令猛獸の檻の前に投げ出されたとしてそれお知る由もなく、地上に抛られたとして如何ともすることの出事なかつた吾、いつ何時危険な斷崖や熱湯の中に這い寄るかも測られなかつた吾、その蟲ケラにも劣つた吾お怪我もなく健に孕んで幸に今日あらしめた鴻恩に想到する時今更に際涯なき兩親の慈愛と佛様の御加護の有難いのに涕淚滂沱たるお禁じ得ません。

豚兒江南に客となり一年脚氣病お患う、今年其の兆なきも慈母重ねて遙々熬練お送り給う鴻恩何れの時にか報いん。(正氣)

一夜輕舟渡滄瀛、起來初識賜熬練、

葢堂愛惠何時報、寵子向東禱壽康。

◎物わ善意に解せよ

「盜難に遇つたら火事に遇つたと思え、病氣したら死んだと思え、是わ餘り極端かも知れませんが世の中のこととは惡意に解釋すれば、する事なす事悉く不平ならざるわなして、少しても前にいつた様な心持で居れば此世わ楽しく面白く送れます。

物は善意に解せよ

よく言うお話であります。或目出度い席上で女中の粗忽から土瓶お打わりました。これが普通の人ならば大變心配して悲觀する所であります。其の家の主人わよく事の解つた人で早速筆お執つて

世の中の貪と貧とお打ちわつて

わが手に残る金のつるかな

と認めて却つて縁喜お祝つたという事であります。

佛説の因果の道理が解つて佛様の大悲に氣がついて参りませんと段々と世の中の出来事お善意に解釋する様になります。

幸なる哉法華經の爲に身お捨てん事よ、臭き頭お勿たれば砂に黄金お替え、石に玉おあきなえるが如し。

世間の留難來るともとりあえ給うべからず。賢人聖人も此事わのがれず、唯女房と酒うち飲みて南無妙法蓮華經と唱え給え。苦おば苦とさとり、樂おば樂とひらき、苦樂ともに思合せて南無妙法蓮華經とうち唱え居させ給え。これあに自受法樂にあらずや。

これにつけて私の例お挙げます事わ誠に烏譚がましい次第であります。が詐らざる

◎私の告白

お致します。私の生家わ淨土眞宗の本場でお題目の聲などわ夢にも聞いた事わありません。タマに加藤清正公の武者繪で見る位が關の山でありました。殊に私の父親わ非常なお同行で自ら朝露軒水泡と號して詩歌の上にも常に信仰のことお謳つて居りました位で亦一私立佛敎中學の創立にわ特別な關係おも持つて居た様な有様です。従つて佛書お繕く事が彼の唯一の慰安であつた様に記憶致して居ります。

然しかゝる家庭に生立ちました私わどうした事か多少の智識お得るに従つて十七八歳の宗敎欲の出て來る頃にわ旺に心靈に關する書物や催眠心理學等お讀みふけりました結果でもありませんか眞宗の敎わ何だか馬鹿くさくなつて参りまして宗敎に對する渴仰の情わ好奇心的に寧ろ禪に傾きました。其間耶蘇敎に

關する書籍も読みました。是れが是れをテ、私の性格と融合致しませんでした。

其内に一年安藝國佛道寺の前管長香川寛量師に參禪することとなりましたが、どうした間違か私に僅に三回の問答で見性も終りました。

然し事實も申し上げると赤兒の魂百まで、母親の乳も手搜る頃から染み込まされた阿彌陀如來に對する印象も當時未だ心の底に潜在して居たのであります。

其の後幾年拙作

五々の秋小糠三合なかりけり

で、今日の日蓮宗村田姓も冒す事になりました。爾來日蓮宗といふものも第三者の眼も以て冷靜に看て居ますと毎朝鼓聲勇ましく

一天泰平四海靜謐、日本國內安全寶祚萬歲四民業も安んじ僧衆清く俱に佛法も興隆せん。別してわ當家家内安全息災延命信心堅固一切無障礙。

云々。と勢のよい御祈禱も聞かされる度には是れ處世上至極重寶な宗門である、此の世も日蓮宗でやつて行つて先の世も淨土眞宗で納まらう位に思つて居りま

した。(尤も私は少年時代に大和田氏の歴史譚の日蓮、稍進んでわ浪六氏の日蓮など讀んで日蓮も偉大なる人であるとの感じも持つて居ました)

そして熟々考えて見ると禪も閑人の仕事で人も茶化する様な氣分がある。今少し皮肉にいえば骨董的宗教である、否宗教というよりも哲學といつた方が妥當であるという自覺が油然として湧いて参りました。

宗教も活動的でなくてわならん。宗教といへば單に線香の香と直に死なるものも聯想させる様なもので駄目だ。處世の根本標準ともなるべきものでなくてわいかん。處世の根本といへば國家即ち吾大日本帝國に相應しい宗門でなくてわ何等價値がないという考が出て参りまして其思想が段々と日蓮主義其ものとの接近となり遂にわ情意投合という所までにピタリ一致も見たのであります。然しながら當初に於いてわ多少の好奇心が手傳つて居た事も争われぬ事實であります。

如斯して稍信仰の芽生えが致しましたのわ子供が生れて人の親としての愛(人生の純眞なる愛情)も知りそめた二十七八歳前後からであります。今年私わ三十

二歳に相成りますが、現在三人の女兒の父であります。私の家わ既に二代といふもの男の子供がなくて、其後お承けた吾々としてわ男子に對する渴望がなかなかのものでわありません。

所で第四番目に生れて來た子供わ案外に大きな男の子でありました。私始め一家の喜悅わ筆にも口にも盡させぬ有様で、これも偏に佛恩と計り天に感謝したのであります。然しこの喜も本の束の間のほかなき春の夢物語でありました。生後第四日目の朝にフト呼吸困難お起して愛兒わ刻々危険な容態に陥りました。醫師お迎える看護婦お呼ぶ色々手限りお盡しましたがどうも面白くありません。此時の私の心事わ唯々お察しに委せます。

私わたまらなくなつてお寺え駆けつきました。此場合私が病床に居ても居なくとも死ぬるものわ死ぬる、生き得るものは生きるであらう。醫師も看護婦も居り親切なる家族も居る、人事の總てわ盡くされて居る。此上わ佛の慈悲におすがりするより外方法わないと、直に住職に願つて病氣快癒の御祈念お始めました。燒野雉子夜半の鶴子故に迷う親の心に今も昔も變りわありません。恥しなが

ら私わこんな事まで心の内に誓いました。「何卒此兒の一命お御助け下さい、されば吾々父子わ命のあらん限り妙法弘通の爲に一身お捧げ申します。且又今後私の得まする營業上の利益わ其の半お割いて日蓮主義宣傳の爲にお捧げでも致します」と。然も薄寒き春の旦あしたの物淋しき本堂に響き渡る木鉦の音の一つ一つにも、若や宅から悲報お齎せはせぬかと心わ終始後に引かされて口に誦する法華經もとかく息切れ勝ちなのであります。幸にして御祈念の終る迄何の知らせもないので僅に愁の眉お開きながらも足わ士につかず空行く心地で家路に歸りました。

愛兒の死

かくて稍見直した様でありますという家人の言葉も再びあだになつて其後三十分許りで此所に宿縁淺き父子わ永久の離別お見るに到りました。戒して

榮如歎欽水子

弔われてこそ親となりし甲斐もあれ、今わはかなく愛し兒お弔う吾身の上、私わ眞に泣きました。人界に生お享けて三十年、未だ嘗て體驗した事のない心の悲痛と肉の震慄とお感じました。

私の告白

或わ老少不定の境なれば老たるわ先立ち若きわ留る、是わ順次の道理なり。歎きの中にもせめて思い慰む方もありぬべし。老たるわ留り若きわ先立つ、されば恨の至つて恨めしきわ幼くして親に先立つ子、歎きの中に至つて歎かわしきわ老て子先立つる親也。是の如く生死無常老生不定の境、ただにはかなき世の中に只晝夜に今生の貯おのみ思い朝夕に現世の業おのみなして佛おも敬わず、法おも信せず云々。

「斯くまでにお願しても私の心お受け入れ下さらぬか、神でもない佛でもない、何が爲の信仰か、何おしも佛の大慈悲とわいうか。多くわ申しません日蓮宗の信仰というものに對して僅に曙光お見出たる私の立場としてこの場合悲痛と不満とに胸中の亂れ懊惱えたのわ無理からぬ事であります。

此所で私わ靜に思い返しました。此子わ何れにしても長生出來ぬ宿縁の下に生れ出でたものであらう。三つ四つと生きて呉れて私の愛の執着が更に深くなつた後に死なれても致し方がない、又二十歳三十歳と生きて相當の資本お入れて愈これで自分の後嗣が出来たと安心した時に突然死んで行く事であつたかも知

れぬ。それお思えばこれも佛の恩である、信仰の賜である、私わこの悲惨事によつて私の信仰お試験しられたのである。これが爲に折角の私の信仰の萌芽が蒔り取られる様でわ駄目である。という事に氣が付いたのであります。

爾來私わ一難に相遇する毎に更に信仰のいや固くなつて行く事の法悦に浴して居るのであります。

此經お持たん人わ難に値うべしと心得て持つなり。

人の世えはかなき花の夢お見に (句佛)

人の世え尊き法の華お見に (正氣)

此兒天折したりと雖も幸にして法華經の家に生れ妙法の聲お耳になし得たるおせめてもの心いせになん。

◎宗門の御米の御飯

近來泰西の文物が決河の勢お以て押し寄せて參ります爲に、これが善惡の識別すらつかず動れば吾國古來の美德が疎んぜられ思想動搖お來たす例が少くあり

ません。

この時に於いて吾々日本國民は大なる覺悟を以てこれに臨まなければなりません。三千年來の經驗が生める思想を最近二三十年の研究によつて打破し去るが如き事わ由由しき大問題でなくてわなりません。

吾國固有の美風わとりもなほさず忠君愛國の思想(即ち犠牲的精神)でありまして、この思想の涵養についてわ學校教育の力も無論必要とわ信じますが終世抜くべからざる道德の根柢を植えつけるにわ家庭に於ける宗教教育の力にまつ外ありません。所で宗教にも色々種類がありまして、夫れ夫れに特徴を持つて居る事わ恰も人類がお米をお食つてもパンをお食つても乃至わお芋をお嚙つても生活し得るのと同じであります。所が日本國民としてわ今の所お米の御飯が最も適當であると同様に宗派の中にもこのお米の御飯に相當するものがなくてわなりません。大體宗教にわ少くとも次の二つの要件が必要であると私わ考えます。

- 一にわ其國家に適應すること。
- 二にわ現在の生活お本意とすること。

の二つであります。所で御承知の如く吾が日蓮宗わ宗祖日蓮聖人が偉大なる勤王家で、日蓮主義といえは直に忠君愛國主義大日本主義を意味する位であります。して、この一事わ御遺文をお拜讀した者わ到る處に感銘する事實であります。現にこの宗門の寺院の誠檀にわ中央に今上陛下寶祚萬歲として朝に夕に皇運の無窮をお御祈念申して居る次第で、斯の如きわ他の宗門に見る事お得ない大精神であります。

日蓮わ日本國にわ第一の忠の者也。肩をお並ぶる人わ先代にもあるべからず、後代にもあるべしとも覺えず。

右の有様で第一の要件を寧ろ本宗門によつて殊更に發揮せられて居るわけでありませぬ。

沙婆即寂
光土

次に第二の現世教であるや否やの問題でありますが吾宗旨でわ十萬億土の彼方に來世の極樂淨土をお夢みる様な手緩いことでなく、娑婆即寂光土(即ち此世において正しき行おして生きながらに佛果をお得るといふ事になつて居ります)と

とかく他の宗門でわ無始以來作り來れる惡業煩惱だとか五障三障の女人だと

か申して人間も罪惡の結晶その物の様に卑下して居りますが日蓮宗門でわさう
でも今にも深い井戸に陥ちんとして危険に瀕して居る頑世なき子供を見れば手
おのべて助ける心地になります。即ちこの瞬間の惡漢の心情わ何等佛様の御心
と變りのない麗しい慈悲心が湧いて居るのであります。して見ると彼等惡漢に
しても彼の聞くだに恐しい慘酷な行爲も敢てするのわつまり色々な肉體の欲望
の爲に本來の清き心が包まれて居るわけなのであります。だから吾吾わ造次顛
沛と雖も怠りなくこの佛の御心を養つて行つて成佛すべしというのが日蓮主義
の骨子であります。

本覺のうつつの覺にかえりて法界をみれば皆寂光の極樂にて、日頃賤しと
思いし吾此身が三身即一の本覺の如來にてあるべきなり。

如上の理由の下に私わ日蓮宗を以て宗門のお米の御飯だと申すのであります。
聖書の如きも世の渡り様についてわ比較的よく説いてありますが、この宗旨わ
立教の土地が釋迦に於ける印度とわ大いに趣を異にしその教義思想の中に國家

家
耶蘇と國

的觀念わ寸毫もなく假令散見するにしても頗る淺薄幼稚なものであります。

人類の思想發達についてわその土地の氣候風土人情が大なる關係を有するわ
無論のこととて、この意味に於いて既に私等わ耶蘇教わ絶對に大日本帝國に適應す
るの餘地も見出しません。強いて是を日本に布教宣傳せんとするものわ曲りな
りにも日本派なる一派を開かねばなりません。

彼の國によりかりし法なれば此國にもよかるべしと思ふべからず。

◎天孫降臨

近來國民間に歴史に對する趣味が漸次勃興して來た事わ誠に結構な事柄であ
ります。

總て人間の生活の方針わ過去の經驗から割り出されたもので、この既往の經驗
研究が即ち歴史であります。

國民として自己の立場を知る上にわ自國の人情風俗を明にし是非とも國史の
研究を致さねばなりません。所で吾國の神話である天孫降臨の史實についても

近來色々と迷説を吐く人が出て來ました。中にわ日本民族わ南洋方面から來たものであるとか或わ蒙古人と同系で朝鮮半島から渡來したものであるとか更に高天原わ朝鮮内地にある等という奇説を弄する輩もあります。

無論歴史の研究わ重要事でありますがこんな風に飛んだ迷路に這入てわ困ります。茲に私わそんな歴史家に對して詰問せんとするものであります。

假に吾祖先わ南洋から來たものとして、それならば其の南洋人わ奈邊から來たのか、まさか南洋の砂の中や樹の股からわ生まれまいと。

この質疑に對して彼等歴史家わ一二回の辯解わ或わなし得るかも知れませんが、然しながら追究の結果わつまり人類の始祖わ何所かという問題、一元か數元か、世界に人類が現われた時期わ何時か、という所に歸着致します。斯うなれば學者先生も解らなくなつて「サアそれわ」という位が最後の答案であります。

して見れば人類の起原というものわ今日一般の考を以てしてわ不可思議といふ様な状態に於いて此の土に出現したものと断定するを憚りません。此所に於いてか私の考察わ否大日本帝國の尊い神話わ動かすべからざる事實として裏書

させらるゝのであります。

畏くも瓊々杵尊わ大日本國民の始祖としてこの國に降臨遊ばしたので、大和民族わ決して南洋や蒙古邊から來た風來坊でわありません。吾々わ正しく大日本國に降臨しました瓊々杵尊の子孫であります。

世界中何處の歴史を尋ねても吾國の如く立派な歴史神話のある國わ外にありません。

西洋のアダムイブの話わ無論のこと支那の太古史にわ人間は半獸のものの様に書かゝれてあり、朝鮮では或山麓の卵から生れて來た等ともいつてあります。

私わここに皆様と共に全世界に比類なき尊き歴史を有する大和民族の一人として此土に生れ出でた事を祝福するものであります。

吾日本國わ一閭浮堤の内月氏漢土にも勝れ、八萬の國にも超えたる國ぞかし。

日本國の王となる人わ天照太神の御魂の入りかわらせ給う王也。

孝子慈父の王敵となれば父を捨て、王に參る孝の至なり。

◎支那の鳥と日本の鳥

是わ前節の天孫降臨に引き續いての話であります。

前にわ歴史家の誤見を指摘したわけでありますが、今度わ言語學者の誤謬に對する批判であります。

或言語學者の如きわ日本語と他の國語との間に二三類似の點があることお舉げて、事珍しく何々語系統であるから或わ中央亞細亞邊から出て來た等と吹聴して居りますが、何れにしても舶來でなくてわ満足出來ぬらしく見えます。然しながら、まさか相談したわけでもありませんが、何處の國民でも泣く時にわ多くア行の音、笑う時にわ殆どハ行の音を發します。私わ淺學にして未だ嘗てカ、と云つて泣いたり、ル、と云つて笑つた民族のあることお文献に見た事があります。せん。

又私わ支那に參りました當時第一に聞いたのわ鳥獸の啼き聲であります。しかし支那の鳥も支那語でわ啼きませぬ、私の耳にわ矢張日本の鳥と同じ聲に聞え

人類の泣き聲

ました

是等の事實を言語學者わだう解釋するか知りませんが、同じ地球の上に棲息し同じ形體を備え同じ機能を具有する動物、否人類が泣き聲なり笑い聲なりに既に共通の點を見る以上全世界の人類が悉く同一の言語であつても其所に何等不思議わないでわありませんか。私わ寧ろ相違あることお不審に考えて居る位であります。

この理由より推して數萬の言葉の内に多少の類似があるからといつてその本末さえも考えず只管舶來人種呼ばわりおする學者の所見の淺薄なるを遺憾とするものであります。

これに關連して思い出すことわ近代日本人わとかく自信がなくて萬事外國の模倣、即ち

◎西洋カブレ

の陋に陥ることあります。其の實例わ簡單なる言語の上にも澤山に表れて

居ります。無論言語等わ近き將來に於いて世界中統一せらるべきものかも知れません。亦かくあるべきものかとも考えます。

吾國民程自國の言葉お尊重しない民族わありません。

この點わ支那人にも遙に劣つて居ります。

獨逸人わ「ドイツ語お使え」といつたと聞いて居ります。一國民としてわこの位の見識がなくてわなりません。自國え來てる外國の使臣にまで外國語で折衝しなくてわならぬ様でわ駄目であります。彼のワシントン會議における加藤友三郎氏の態度わ非常に徹底して居ります。

固有名詞又わ日本語に表すことの不可能なるものならばともかくとして「ブレミアム、ストライキ、ハンカチーフ、プロレタリア」の類に至つてわ必しも原語のまゝ借用するにも及びません。こんなのが随分澤山にありまして、一寸感冒が流行すれば直にマスクといふ言葉が使用せられその他「デモクラシー、サボタージュ」等と日々一つや二つの舶來語の現れぬ事わありません。その是非わともかくとして萬事この轍で西洋カブレするのわ事實であります。猶甚しいのわ生半熟な學者や學

生連中にわ外國語を交えて話おすること、原語お文中に加えることお一種の誇りとまで心得て居る人もあります。尤も是等の風わ以前にもあつたもので彼の瀧澤馬琴が水滸傳の翻譯おするにあつて盛に支那語のまゝお採用した事が今日に禍して、爾來小説家の中にわ殊更に怎麼閑話休題等と書いて悦に入つてる人もあります。

日本でわ書齋に金ピカの洋書がないと、あの先生わ原書お讀んで居ないね等と生徒迄先生お馬鹿に致します。

習日本の教
然るに或日本の學者が支那學堂の教師として彼の地に赴任致しまして、内地同様の考で例の金ピカお澤山携えて行つて書齋お飾りたてました。所が一日支那の學生共が訪問して來て是お見るや「何だ日本の學者なんてマルキリ西洋の受賣りだ、あの先生の學識も日本の文明も奥の解つたものだ」と爾來この教師のみならず日本の教習の評價が頓に地に落ちたという奇談があります。

餘事わさておき此所が吾々の大いに反省お要する點だと信じます。言語の如き日常の些事に於いてすらとかく西洋に心酔昏迷し易い日本國民わ今少しく有

意義に且又大なる自信を以て世事を看察し世界の風潮を批判して貰いたいのであります。

漢學の必要
倭魂漢才とわ千年の昔に菅公の遺された金言でありますがこの心持を名付けて私わ國粹保存主義と申しませうか。猶私の切望する所わ現代の若い人達に論語や孟子を讀ませたい一事であります。思想上の問題についてわ東洋を決して西洋のそれに後れてわ居りません。

◎舶來思想の直譯

昔の外國語の獨案内などいうものを見ますと彼の女の家にまで行くべく餘りに遠いといつた風な在來の日本語とわ融和しない直譯文が臆面もなく並べてあります。これは翻譯者が日本語に對する自信を有しないために外國語をよく咀嚼することが出来なかつた結果です。

思想問題にしても同様で、所變れば品變るの例に漏れずその居住する所の風土によりて自然否必然的に色々な風習慣例を生ずるもので、南國の情調を北國に來

て味うことも出来ず、亦それを持つて行けるものでもありません。椰子の葉蔭で耕すことも何も知らずに暮して居る民族があるからとて、吾々がその眞似をして遊んで居れば明日の日から饑渴に死するより道わありません。

民族の思想にしても北露わ北露、西歐わ西歐、亞米利加わ亞米利加とそれ／＼相違があります。然るに日本の學者の間にわこの先天的相違を更に念慮におかず、外國語の直譯的に何でもかでもそのまゝ、日本思想に直譯せんとする人があるので色々な矛盾や間違つた問題が惹起して社界に迷惑をかけて居るのであります。これが識者に反省を促す點で、以前にもいつた如く日本人わ一にも二にも舶來といえば眩惑してしまつて吾國により以上の言葉があつても外國の先哲が残した金言などといえは無暗に勿體なものが僻であります。

それにつけても或人が私にこんな話をしたことがありました。

英語の Derrick といふ言葉わ到底日本語で現すことわできない。亦ハンドオフ等というキビ／＼した文句も吾國にわないと。是わ誠に僭越な申分であります。無論學術語に於いてわ日本にない言葉が澤山にありますが、其の他の言語

言靈の幸
う國の幸

においてわ何しろ言靈の幸う國で、決して英語等にヒケわとりません。デリケー
トという様な總括的な言葉わ或わ日本にわないかも知れません。この一語だけ
でも國語に直せば更に數十種に分たれて使用して居ます。英語の二人稱のユー
という一語が吾國でわ幾つに分たれて居るかお考えるだけで總てわ解決せられ
ませう。

畏れ多い事ではありますが教育勅語が完全に外語譯出來得れば私わ他わ申しま
すまい。

思うに英語のハンドオフが決してキビキビして居るわけわなく、彼の國民が
公德心に強く各自嚴重にハンドオフすることによつて此の語おして權威あらし
めたわけで、日本語の「手お觸るゝな」という觸れるなる一語の如きわ實に機微なる
動作の表示でありますが、悲しい哉吾にわこんな標札お見ても是お嚴守するの徳
義に薄く折角の名句おも何等價值なき言葉としてしまつたので罪は國民にある
わけなのであります。

辨慶の名
文

辨慶の「此の櫻西國に見ざる所也。一枝お手折るものわ一指お切る」こんな風流

な文句が外國にありますか。

無論名辭の不都合なる場合も段々あります。言い慣れて居るとわいうものの
軍隊の上。等。兵等という言葉わよく考えれば全然品物扱の様にも思われます。然
し何時かも巡査の品位の低下お論じて名稱變更が問題になつたことがあります
が、これなどわ馬鹿な話で、假令監獄所が刑務所と改稱せられても依然として犯罪
のあとお絶たず、あの聞くも恐しい絞首臺も取除かれるわけわありません。

◎折伏と大慈悲

日蓮宗わ頑迷であるとか他宗攻撃おするとかの批難おチョイ／＼耳に致しま
すが是わ固い信仰の立場からして「止むお得ぬ」とお答するより外ありません。大
體信仰というものわ習慣や儀式でわないので各自の信仰わ唯一であるべきもの
です。

八宗兼學

これわ是であると思じた以上他の總てわ悉く非でなくてわなりません。世間
にわよく八宗兼學などといつて宗教お學問科學の様に心得て、僕わ參禪もした、日

蓮宗も少少わ囀つて居る、子供わ時々教會の方へ行かせて居る等といつて得意然たる人があります。こんな人に限り八宗わ愚一宗に關する知識もなく、まして信仰の心などわありません。

重ねて申しますが宗教わ學術でわありません、絶對の信仰即ち宗教なのであります。佛様のことおよび慈悲の親様と申しますが誠によくいつてあります。所で此世の中に生みの親が二人ある人がありませうか。假にも親と名のつく佛様も同様唯お一人しかありません。幾ら似て居ても他人の親わ自分の親でわありません。

畢竟此信念に基いた絶對的信仰より更に進んでわ自己一人の安信に終らず、是わよいと理信した事わあく迄も社界國家のために鼓吹宣傳して救世の實を擧げんとする真心、この努力こそは時に却つて是非の批難を受ける原因なので、外から申せば或わ攻撃とも見られませうが吾々よりすれば衆生濟度の大慈悲心なのであります。

念佛無間、禪天魔眞言亡國、律國賊。

日蓮わ去ぬる建長五年四月二十八日より今年弘安三年十二月に至る迄二十八ヶ年が間又他事なし。只妙法蓮華經の七字五字を日本國の一切衆生の口に入れんと勵むなり。これ即ち母の赤子の口に乳を入れんと勵む慈悲なり。

鳥と虫とわなけども涙落ちず。日蓮わなかねども涙ひまなし。この涙世間の事にわあらず、唯偏に法華經の故なり。

◎父なし兒

信仰とわ佛様の存在を自覺することでありますが、前申した通り、叶わぬ時の神頼みとやらでどんな人でも多少とも佛様を知らず知らずの間に認めて居ることわ争うべからざる事實であります。

それで信仰のある人と信仰のない人とわどんな相違があるかというに丁度親のある兒と親のない兒との様なものであります。

此所に親のある子供と親のない子供と二人あつて、共に學校に通つて居ると致

しましてある日のこと習字を書いた所二人とも甲お貰いました。所で親のある子供わこの清書お携えて歸つて兩親に見て戴いて更に言い知れぬ喜お共に致します。片方の親のない子供わ其の場きりで誰に褒めて貰うでなく却つてお父様が居られたら等と、悲しい心持に人知れず袖お絞ることもありませう。(私わ十五歳にして父に別れ切實にこの感じお知るものであります)

然らばこの二枚の清書わ同じく甲でありながら出来榮が違ふかというに決してさうでなく親の有無によつてこの差別が出来るのであります。

私の言わんとする所わ此所であります。吾々佛お信ずる者わ世上萬端善い事に出合つてわ更に親である佛様と共に喜び、悲しいめに相遇しても佛様に聞いて戴いて幾分でも心お慰めます。更にまた佛の親様が眼前に見ておいでると思ふ時十の惡事わ八つに遠慮致します。この反對に親のない子供わとかく精神がイジケて自暴自棄に流れやすいのと同じく信仰なき人わ世の中お不満に思い、ともすれば惡事にも就きやすくなるのであります。

こゝが善惡の分岐點でありまして、今日吾國の所謂知識階級の人の間にも無宗

衆生の親

教お一種の誇(自稱唯我獨尊)として居る人もあり、さう迄でなくとも現代の學者わ頭腦が全く學術のために乾燥し切つて器械的になつて居る關係上宗教心所が温い人間味もなくなつて居る人が澤山あります。この人達もやがて親のない子供で段々と氣がヒガンで來て社界に對する不平反感お懷く様になり遂にわ最高學府の教授あたりの中からも過激思想に共鳴する人物お出したり、知名の辯護士が社界主義者の辯護お引受けたりするに至るのであります。

かゝるが故に徒に大將とか博士とかいふ肩書に憧れてその所説お悉く信用して居ると大變な間違になります、誠に注意すべき事柄でわありませんか。

寄花述懐

正氣

萬里辭家薄命兒、

企圖無就志先衰、

高昌廟畔三年夢、

桃李今春報別離。

◎喫煙と信仰

佛様え手お合せたり、お經文お誦むことお非常に嘲る人があります。然し煙草

おのむ習慣のある人わこんなことわいえた義理のものでわありません。何故かと申しますに人間のする事お一々仔細に看察すると下らぬ事が澤山ありますがその中でも一番廣く行われてそして一番妙な習慣わ喫煙であります。草の葉お乾してそれに點火してその煙お喫うという最も馬鹿げた思いつきで、それも一定の場所でするならばともかく、座敷の上であらうが食卓の上であらうが甚しきわ便所の中でさえこの火遊びおするのであります。

人わ野蠻人の風俗お賤しみますが吾々文明人の風俗の中に於いて最も蠻人に近いものの一つわこの喫煙であります。然るにこの馬鹿らしい習慣おば寧ろ當然と思つて彼の尊い佛様に禮拜する行爲お彼是と批評するのわ大なる矛盾であります。

要するに私わ煙草お喫することお信仰上善いとか悪いとか論ずるのでわありませんが世の中の人わ喫煙の惡弊お見遁す眼があれば神佛禮拜の良習お認める眼おも持つて貰いたいのであります。

大體この煙草にしても酒にしても生れながら好きな人わ殆どありません。誰

しも最初わ味も何もなく寧ろ苦しくて頭痛お催したり嘔き氣がしたりするのであります。

それお辛抱してまでもこの惡僻お作るのでありますから益々呆れざるお得んでわありませんか。

私わお酒も煙草も一切のみませんからその眞味お解しませんが、長談議の後や食後又わ寢起きなどに一服吸い込んだ風味わ何に譬えんものもなく心地よいものなさうです。如斯最初わ不味かつた煙草、何等利益にもならぬ煙草、それですら常に喫つてる内にわ嗜まぬ人にわ到底想像もつかぬ美味いものとなつて來るのであります。

然し私の高唱する信仰の妙味に至つてわ又別段でありまして信仰のない人にわ到底味う事の出來ない尊いものであります。

毎朝佛前に端座して朗に讀經禮拜お終つた時の心身の状態わ形容の出來ぬすがすがしいものであります。

外から見れば阿呆らしいかも知れませんが初て苦い煙草お喫つた思で時にわ

妙法の風 佛様にも手お合せて御覽なさい、必何處ともなく妙法の風吹き來つて胸中の曇お拂う事せう。私などわ旅に出る時にわ必ず留守中の萬事お佛様に御頼みして行きます。又汽車の窓から野に遊んで居る自分の愛兒と同年輩の子供の群お見て頻りと家のことが氣に懸つて來るといふ様な際にも直ちに佛様お念じて御守護お御頼み致すのであります。かく行住坐臥口に唱題お怠らず信仰の妙味お忝にする事の幸福わ喫煙などの比でわありません。

◎店員の喧嘩

或日のことでありました。店の上級の店員が私の所え裁斷お求めて参りました。その事柄わかうなのであります。下級店員があまり怠慢であるため手厳しく意見お加えた所下級の者がそれが如何したといふのか氣に入らなくば何とでもして呉れ」といつて反抗したといふのであります。其所で私わ二人お呼んで事實お質した結果下級店員に篤と注意お加えてお詫おさせて事件の解決おつけました。

この一件で私わ今更の如く世の中わ危険なものであることお痛感致しました。階級即ち長幼の區別とか禮儀とか全く節制のなくなつた人類程恐しいものわありません、何等獸畜と異らないのです。

年長者の方でわ、彼れわ自分よりも目下のものであるから其のする事も到底自分の満足するだけの事わ出來ぬに定つて居るだから常に教養指導してやらねばならん。又年少者の側でわ、あの人わ自分よりも先輩である、上の人の意見わ尊重せねばならん、と常に互譲するが爲に共同生活の調和わとれて居るのであります。それが一朝「何んだ」といふ氣分になれば世界わ黑暗となり智慧があるだけに野獸よりも更に慘憺たる修羅場お演じ出す事になります。

右の店員の諍の場合に互に暴力お以てすれば何れが勝つとも解りません、主人の立場にある私とても無論の事であります。胸中言い知れぬ不満お懷きながら猶私の言お容れて温順しく詫おして事なきお得せしめて呉れた下級店員の心事お忝度する時、この私お猶信賴して人類共存の美德に就いた事お感謝せずには居られせん。それと同時に私わ一家の内に諍お醸さしめた自分の不徳お佛に慚

互譲の徳

ずるものであります。

私わ以上の陳述も自分の論據として家長主義やがてわ國家主義即ち絶對主權を讚美高調するものであります。

國主わ國民の爲の父母なり、主君なり師匠なり。片時も背かば國安穩なるべからず、此れを崇れば國わ三災を消し七難を拂い人わ病なく長壽を持ち云々。

◎大日本帝國と絶對主權

國際法

絶對の權力なき權利義務の遂行、これ位つまらぬ約束ありませぬ。遊治郎の花見行の下相談位なもので、其の日の天候や本人の氣分次第でどうにもなります。國際法であるとか、同盟條約であるとかいつた所で、尻を捲くつたが最後一つの空文に過ぎませぬ。これわ何が爲かと申しますに、それ等の規約が萬一違背せられた際に或程度迄わ自發的に又わ他からの抗議によりて履行せらるゝものであります。が、一朝どうしても規約を遵守せぬという様な事態が突發した場合に是を

制裁し得る絶對の權威者が不在からであります。

吾々個人に於いても同様で動かすべからざる一つの信條がなかつた時にわ其の人わ常に靈肉の争闘の爲に放縱なる一生を終るより外わありません。一家に於いても亦絶對權力を有する家長があればこそ兄弟牀に聞くの醜態を演ぜずして暮されるのであります。

國家

これ即ち私が絶對主權の必要を絶叫する所以であります。

昔から「國家」なる字義についてわ法律家が色々な説をなして今に至るも是を完全な簡單に説明し得たことお聞きませぬ。是を無理からぬことで彼等頭腦の固くなつた學者にわ國家でわなく、國家の重要な要素をなして居る人というものについて、恐らく完全なる説明わ出来ませぬ。自分と他人とわ判然と區別がある様でも仔細に看察する時、總ての人類わ地によつて連續せられ、共有の大氣を呼吸して生存して居るのであります。こんなシチュエーションを議論わよしまして有難いことにわ吾々わ佛様から授けられた知識によつて日本と支那とを取り違える様な事わありませぬ。

家

國家なる文字を非常によく使つてあると考えます。特に吾々が留意すべき點は國家といつて家の字を使用してある事であり、如何にも一國を一家の集りであります。

繰返して主張致します通り、一個の人にわは是を支配すべし、全能の精神、即ち信仰がなく、わならず、一家を支配するにわ一家の全權を握る家長が居なくてはなりません。従つて一國にわ一個の絶對にして侵すべからざる主權者、即ち天皇が御座さなくてはなりません。否、御座すことによりて大日本帝國を建設創業せられて居るのであります。これ即ち吾國體が宇内にその比を見ざる所以でありまして、やがて寶祚無窮たるべき理由なのであります。

共和といふ事、表面文明的に聞えますが、事實を全然裏切られて居ります。彼等、常に強い者勝ちといふ生物の本能を幾年毎かに繰返して闘争を續けておるのであります。この人類通有の憐むべき争闘なからしむべく、吾國にわ未來永劫の統治者として天孫が御降臨下さつたと覺る時に無限の有難味と崇嚴の感に打たれるのであります。

建國の意

彼の日清日露兩役に於ける吾國の奇勝によつて列強の視線を等しく極東の新興國に集注せられました。そして各國の識者連中を寄つてたかつて日本は何故戦争に勝つたかという事色々研究致しまして其の結果を等しく「日本の家族制度に起因す」というに一致いたしました。今や理解なき舶來思想の直譯から、一にも二にも舊習打破なる一語によつて危くもこの麗しき日本固有の家族主義を棄てられんとして居るのであります。これ未だに防ぐとわ最も焦眉の急を要する大問題であります。無論軍隊や警察の力も以てなし得べき事柄でなく、どうしても少年時代の教育と家庭内に於ける宗教の力によるより外ありません。此節小學校などでも人類愛なる思想を旺に咲き込んで居りますが、ものの本末を顛倒せぬ様に注意しなくてはなりません。勅語にもある通り博愛を衆に及ぼして行くものであつて常に親疎の順序がなくてはなりません。一足に自國といふ境界線を飛び越して貰つてわ困ります。

人種平等案

口に平和主義を唱えて居ながら平和會議に於ける人種平等案の成行を如何でしたか。彼等耶蘇教徒が常に主張する人類愛なるものがそれ程重大なるもので

あるならば第一に異議なく可決せらるべき提案でなくてわなりません。然るに反對に苦もなく否決せられたのを見ますと、彼等わ人類愛よりも以上に自分の國家否國民の擁護の爲に考慮して居るのであります。この様な解り切つた經驗を持ちながら又しても彼等の術策に乗せられて軍備迄も解いて列強の甘心を得んとするわ恰も徳川氏の爲に城廓の外濠を埋めて自然に凋落し終つた哀れな大阪陣の史蹟を讀むに似てあります。尤も今度のワシントン會議に折衝の任に當つた人わ徳川(家康)と加藤(清正)でありますからこの心配わ無用かも知れせん呵々。身一度海外に足お運んでみると如何にも同胞の有難味が體驗せられます。港に母國の軍艦が碇泊して居る時如何計り心強く取引が出来るか、這般の心理状態わ物見遊山的贅澤旅行で外遊した連中にわ到度解る話でわありません。皆様わ彼の尼港の慘事お何と見ますか。

大體人類愛だとか宗教に國境なしとかいふことわ全世界救済という意味に外ならず、誠に望まじき事でありますが、此所に盤面の上に取り亂しておかれた基石があるとして是を整理致しますにわ唯漠然と全體の上に整理する等という事わ

出来ません。失張り根氣よく一個宛取り片付けて行かねばならぬと同様に、自分お正し一家お正し一國お正しやがて全世界に及ぼすのが物の順序で、只只人類愛などという事お唱えるのわ石垣お上から下に改築して行く様な矛盾であります。如斯吾建國の意義が超世界的のものであることお理信した吾々わ日蓮宗の所謂沙婆即寂光土なる語お現實にこの土の上に見る様に努力せねばなりません。天下泰平國土安穩わ君臣の樂う所、士民の思う所也。それ國わ法に依て昌え法わ人に因て貴し。國亡び人滅せば佛お誰か崇むべき法お誰か信ずべきや。先國家お祈りて須く佛法お立つべし。

◎人間の定義

世の中のことお熟々考えて見ますと、佛様の配劑程尊いものわありません。第一世界の男女の數でありますが、これとて私の内にわ女計りで困りますなどといつてる人もあります。未だ嘗てその爲に獨身お餘儀なくされた實例お聞きません。して見ると世界に於ける男女の數わ佛様の指圖でチャント相半する様に

出來て居るのであります。

これに依つて直に想像出來ることわ人類わ夫婦で以て一家お作る、即ち一夫一婦が自然の道理であることが領定せらるゝわけであります。そこで私わ人間わ一夫一婦でもつて始て一人前の人類としての天職お果せるものであるから、男獨り又わ女獨りでわ一本の箸の如く、世の中でその用おなさぬもので、是お完全なる人間とわ見られないという事お定義するのであります。従つて獨身主義者等わ人類の滅亡お計るもので大不忠大不孝者というべく、吾々よりすれば人間としての存在お認むべき輩ではありませぬ。(尤も多數の内にはわ自己お一つの犠牲とせる特別の例外もあります)

如斯男女わ各異つた天分お有し互に方面お異にして足らぬ處お相補つて始めて完全なる一體として社界に共存の意義お有するのでありますからこの二個の集りという事實がある以上わ前にも申しました自然の秩序がなくてわなりませぬ。例の選舉問題の如きも私の意見よりすれば夫婦に對して選舉權一個とするのが至當の様に思われます。

選舉權

然るに近來個人お本意とする泰西思想の爲に飛んだ謬見お生んで男女同權等という邪説お見るに至つたことわ人類の爲に誠に憂うべき問題であります。

天地、日月陰陽、この大自然の區別わ嚴として萬古に變ることなき大眞理であります。假にも太陽が時々夜中に出現したり、天と地とが顛覆したならばこの位な大變わありません。この眞理より推斷してみると男子わ陽として外部に活動し、女子わ陰として内部お守るべき性質のものとしか考えられませぬ。

女子の本分としてわ一家の内政お所理する上に男子以上の努力お要するわ明白なる事でありませぬが、それが常に男子の努力範圍にまで出シヤバルことになればつゞまりそれだけ自分の本職の内政お疎略にするわけになります。

吾國在來の風習にも是正すべき點わ多々あります。現代の婦人わ宜敷覺醒して廣く世界の大勢に通じなくてわなりませぬが一面自己の天職お忘却してわなりません。

男女同權といわず男女同體と自覺して居れば決して間違わありません。

東洋でわ男尊女卑といいなして居りますが、新しい女にいわせると文字が穩當

男表女裏

でない、女子お侮辱するものであると大變な御立腹であります。然し社界の秩序という上からしても集合體にわ必ず上下前後、左右の別がなくてわ治まりわつきません。同一の勢力のものが二つあつて一團として生活の基本おなすことわ到底出來ぬ事であります。故に私わ敢て男尊女卑なる語わ用いませんが夫婦わ着物、物の裏表の如く男わ裏、女わ裏、即ち男表女裏とでも申しませう。

ここに若し着物の裏が何だ馬鹿臭い、同じく着物で居て何時も人に見えぬ裏面に計り居るより今日から少し表え出てやらうと片袖だけ金巾の裏地が外え出たらどんなものでせう。それこそ世の笑い草であります。

私わ決して女子お卑下致しません、夫婦とわ異體同心二人で始て一人前の人間と稱え得るので、この道理お覺らずして勝手な理窟お立てる事わ大なる見當違であるお斷ずるのであります。

畢竟今日の一部の人士わ夫婦お別個のものお考えて居るから種々な不平や問題が起さるのであります。更に卑近なる例お引けば皆様の足が皆様の眼に向つて同權お主張するとか、今日限り汚い所わ歩まぬとかいつて駄々お捏ねるのと同

様で、こんな人わ結局自滅するより外方法わないのであります。

更に私の所見お繰返して申上げれば、人間とわ男一人でなく女一人でもなく、夫婦で始て一個の人間である然して夫婦わ一枚の袷の如しというに盡きて居ります。

電燈というものわあれで陽極だけでもともらず、亦陰極だけでもともらず、陽陰二極の接觸によつて燈火の用おなして居るのであります。今日の如く盛んに泰西の思想が浸入して來て人間の好奇心、流行語でいえば新しがり屋の弱點に喰い込まんとして居る際にわとかく前後の辨えもなく附和雷同して社界お毒し易いものであります。

例の新しい女寧ろ淺間しい女と稱する人人お見れば悉く未だ袷衣にならぬ獨身者か又わ一度着物の裏となつて再び洗張に出された様な人物計りでありまして、幾ら地質がよくても裏地用わ裏地用としてのみ重寶なものでまさか單衣にするわけにわ參りません。

私わ第一革命當時支那に參つて居りましてよく革命戦お見物に行つたもので

支那の娘
子軍

す。當時私の染々感心したことわ支那全土わ舉げて革命という流行に逐われてしまつて、世界中一番内氣な女性として知られた支那の女學生迄が遂にわ娘子軍お組織した事であります。御承知の一人立ちも出来兼ねるあのチツボケな纏足で鐵砲お擔いで軍隊教練と來たのでありますから、實に抱腹絶倒、又と見られぬ喜劇でありました。

げに懼るべきわ思慮自信もなくして徒に時流に投ずる人類の雷同性であります。

女人となる事わ物に随つて物お隨える身也。

夫樂くば妻も榮うべし、夫盜人ならば妻も盜人なるべし。

女子一人、男一人、譬えば天にわ日月の如く地にわ西東にかたどれり。鳥の二つの羽根、車の二つの輪なり。

題 善 妄

孝行な孫かと思れば子指なり。(正氣)

◎衆生の恩

私わ未だ嘗て政談演説お傍聴した事がありませんが、大體この政談等というもののわ此の世の中には是非必要なものでありませうか。眞に邦家お思ふ人のお話ならば大變望ましい次第であります。聞く所によれば此種の演説の多くわ時の政府や反對黨の攻撃、若くわ自黨のお手前味噌に過ぎぬ様であります。して見れば寧ろ害あつて益なき事の様に考えられます。日本の國民の總てがあんな風に時の爲政者の攻撃に憂き身お寔して居た日にわ吾々わ一日の安泰おも得られぬ境地に陥るでありませう。

よい齡としおからげて孫も子供もある親爺さんがガヤ／＼と政府攻撃事の善惡お問はず、時の政府お攻撃することによつて低級なる民心お得る唯一最善の方法とのみ心得て居る彼等お臆面もなくなし得るのわ果して何人のお蔭であるか、國亡びて山河空し、政府の保護があればこそ色々立場お異にした群衆お一堂に集めても懸念する所なく駄法螺が吹けるのであります。彼等が地方に遊説するにわ

國亡びて
山河空し

衆生の恩

幾人の力によつて出て來たか、汽車に乗り俵に乗り、空腹い目にも遇わず轉々し得るのわ總て衆生の恩國土の恩であります。

吾々が三度三度口にするお米の一粒もどれだけ澤山な人の手お經たる後自分に與えられたるかお考えれば無數億衆生の精魂の結晶として感謝の誠意お捧げざるお得ません。

又手紙一本認めても三錢の切手お貼る時、人間共存の力によつて遠隔の地にも通信し得るといふ一事お思い浮べて、この衆生の恩に對して酬いることお常に念慮におかなくてわなりません。

◎祈禱と回向

姉崎博士の法華經の行者日蓮に「祈禱に關する上人の懷抱お未だ充分明白にし得なかつた」と書いてあります。それがどんな意味で書かれたのか私にわよく徹底致しませんが現代の科學萬能主義の見地よりすれば祈禱という様な形而上の行爲が或現象お齎す等という事わ絶対に信用出來ぬ問題でありませう。然し心

頭お滅すれば火も亦熱からずで人の一心の凝つた時所謂沒我三昧の状態に入つて神靈相通じた位摩訶不思議なものわありません。

御妙判にも「大地わ指さば外るゝとも虚空おつなく者わありとも、潮の満干ぬことわありとも日わ西より出づるとも法華經の行者の祈の叶わぬ事わあるべからず」又「只肝要わ此經の信心お致し給い候わば現當の所願満足あるべく候等とありまして、吾々が佛様お念ずる至誠が佛様の御心に通じて相感應した時に吾々わ勿體ない靈驗に接し得るのであります。然らば御祈禱すれば何人と雖も即座に願望お達するかというに然様でわありません。日蓮聖人の仰せられた如く「此經に信心お致す法華經の行者でなくてわなりません。又、法華經お餘人の讀み候わ口計り、言計りわ讀めども心に讀まず、心わ讀めども身に讀まず」とあるのわ當に含味すべきお言葉であります。

法華經の
色讀

文永八年の夏わその春以來の大旱魃で、地上の草木わ枯死し人畜わ飲む水にも窮する有様でありました。此の時日蓮聖人が當時活如來とまでいわれて上下の信賴並ぶものなき極樂寺の長老良觀の修法お嘲つて自ら降雨の靈驗お現された

ことわ有名な話であります。

薬王品に「此經わ即ちこれ閻浮提の人の病の良薬なり。若人病あらんに此徑お聞くことお得ば病わ即ち消滅して不老不死ならん」とあるが如く、假にも衆生の親という佛様の大悲悲お以て吾々が至誠お捧げてお祈りする時感應なくて何と致しませう。

自己吹聴の様で誠に心苦しい話でわありますが吾々の様な非徳不信のともがらでも愛兒弘之の生後百日の大患に際して篤信なる人人の真心お盡したる同情祈願によつて慥に佛天の御加護お蒙り再生の喜に感激した奇しき經驗があるのであります。猶是等の色々に見開した利生談に關してわ他日法華經靈驗記とでも申す様な物お書いてみたいと思つて居ます。

次に回向といふ問題でありますが、日蓮聖人が「外典の孝經にわ唯今生の孝のみお教えて後生の行末お知らず、身の病お癒して心の歎きお安めざるが如し、又「死人なれば何事のあるべきと思つて後生お訪ねざれば惡靈となり子々孫々に崇おなすと涅槃經と申す經に見えたり」と仰せられた如く、高遠なる佛教の三世の教旨お

奉ずるものが死者の冥福お祈り、更には是お縁として自分の佛果増進お修行することわ當然のこととあります。

弔う人とてもなく空しく路傍に轉んで人の足蹴のまゝになつて居る一塊の墓石と雖も其の人の死の當時に遡つて見れば幾人の肉親知友が相集つて悲愁斷腸の涙お注いだことか、又それ等の一念わ凝つて今も猶墓標と共にさまよつて居るかも知れません。斯く追憶し來ると目に映るもの耳に聞ゆるもの一として菩提發菩提心の縁となり正覺の因とならざるわないのであります。

日蓮も信じ始め候いし日より日毎に此等の勘文お誦じ候て佛天に祈誓し候によりて、種々の大難に遇うと雖も法華經の功力釋尊の金言深重なる故に今まで相違なくて候也。

◎謗法の現罰

善につけ惡につけ法華經お棄てるのわ地獄の業である。又法華經の行者お惱ますものわ必ず佛罰お蒙るべきものである、とわ日蓮聖人の主張であり、法華經の

所説であります。此の謗法の現罰に付いてわ私わ論より證據二つの有名な史實お舉げる事に致しませう。

古來日蓮宗でわ僧俗お問わず勸持品の迫害忍受お色讀體驗した殉教の士が随分澤山にありまして、其の内で最も著しい例わ前に日蓮聖人後に日親聖人とこのお二人であります。

尊氏によつて創業せられた室町の柳營も六代の義教の頃に至つてわ次第に綱紀が萎靡して何所ともなく衰頹の氣分が漂う様になりました。其所え持つて義教が自分の才お恃んで政柄お執つた爲社界わ日に墮落して參りました。此の時にあたつて世相の頹廢お歎き幕府に向つて前後數回に渡り直諫したものが吾が日親聖人であります。然るに義教わ自分が嘗て青蓮院の座主として天台の僧侶であつたのと、自分に反して兵お舉げた前の鎌倉管領足利持氏の臣一色氏の子女お日親聖人が養つて弟子にして居られるという事お曲解して非常に聖人お憎み、どうかして聖人お自分の前に屈伏させねば將軍の威信に關すると考えて色々な手段お以て強壓迫害お加えたのであります。

立正治國論

然し日親聖人わ迫害お受くる毎に益々大勇猛心お發して或わ諫曉文お以て或わ直々將軍に面接して一層強硬なる諫言お呈しました。そして最後に起草せられたものが彼の立正治國論であります。於茲義教わ遂に日親聖人お捕えて獄に下しました。その獄屋というのが廣さ四疊、高さ四尺五寸、天井にわ一面に釘が打たれて居て、其の中に三十六人の人と共に雜居せられたのであります。爾來五百餘日の間或る時わ雪中に裸體として鞭打たれ又或る時わ炎熱の日に山なす薪の間に置かれて火攻めの大呵責お受け、更に水攻め熱湯攻め其の他鋸お以てし烙印お以てし地上に於いて成し得る限りの慘酷なる體刑わ一々吾が日親聖人の身上に試みられたのであります。然も聖人の信仰わ微動だも致しません。聲のあらん限りわ將軍に對する直諫となり、息の通う限りわ題目お口に絶たれませんでした如何なる拷問に對しても自若泰然たる聖人お見て益々苛立つた義教わ遂に鍋を灼熱して是お聖人の頭に冠らせました。紂王と雖も案出し得なかつた極刑であります。

火不能燒

然し火不能燒水不能漂刃仗不加毒不能毒の金言に生きる不惜身命の行者日親

水本能漂

聖人の堅忍不拔の信念に至つては何物も以てするも是を覆す手段方法ありませんでした。義教わ此の有様を見て憤怒と悶々の情とに堪えず、何とかして聖人の口から題目の聲を絶たしめ様と考えて遂に恐れおののく獄吏に命じて聖人の舌端を切り取らせて再び獄に投じたのであります。それでも猶飽き足らぬ義教わ嘉吉元年三月十三日の朝使者を獄に遣わして、法華經の行者を苦しめるものわ佛罰を蒙ると聞いて居るが此の節わ法華經の威力も衰えたのであるかと皮肉な質問を致しました。日親聖人わ是れに答えて、聞くも愚なこと、君において法華經を断じてお用いならぬとならば向後百日お待ちなす必定お氣付のことも御座らうと申しました。

その年の六月廿四日即ち日親聖人の豫断から丁度九十九日目の事でありました。義教わ家臣赤松滿祐の邸から猿樂の僅しに招かれてこれに臨み、其の夕刻此の邸内に於いて従者と共に悉く殺戮せられたのであります。

八難の名も後世に残した此の殘虐將軍の戦慄すべき行者迫害の罪も猶これだけわ賠償されませんでした。其の後に於いて嗣子義勝が將軍職を次ぎましたが

幾許もなくして不慮の死を遂げました。

茲に於いてか將軍家にも謗法の罪の今更に恐しい事を感じて中にも義教の奥方の哀愁悔恨わ一方でわありません、遂に日親聖人の許に走つて落飾致しまして亡き夫と愛兒の冥福の爲に一生を唱題三昧に終つたのであります。

安土法論

次ぎには織田信長の事蹟であります。彼れが堺の日蓮宗妙國寺の蘇鐵を安土城内に移植して信長の傲岸を以てして靈異に苦しみ遂に是を妙國寺に返したといふことわ有名な傳説であります。

吾が國の武將中信長の如く殘忍苛酷であつたものわありません、従つて又彼れが如く悲惨な最期を遂げたものも稀であります。一體信長といふ男も宗教主として佛教徒をさすお利用せんとして失敗したものか、それとも耶蘇教によつて人心の統一が出来るものと考えたのか、中道にして斃れた爲に其の邊が分明致しませんか、とにかく石山本願寺の攻畧、近江加賀越前等に於ける一向門徒の殺戮、叡山の焼討、高野征伐の企畫、最後に安土法論の慘劇と所有方法を以て僧坊伽藍の破壊を企て中にも日蓮宗に對する迫害も最も峻烈なものであります。

其の原因については諸説がありますが要するに信長が愛憎の念の強い男で一度自分の氣に入らぬもの何處までも讐敵として報復を計ること、自己の目的遂行の爲にわ人情道義を顧みぬこと、法華宗門徒が自分の意に叶わず又日蓮宗が武家政治と融和せぬこと、以上が主たる原因であることと争われぬ事實であります。其所で信長が足利義教の前轍に懲りず日蓮宗を屈伏させる爲に安土法論の一幕を仕組んだのであります。従つて豫定の行動として宗論の勝敗如何に關らず理不盡にも普傳日門、大脇傳内等と惨殺して浄土宗の勝としてしまつたのであります。この慘事が安土浄嚴院に於いて行われたの事實に天正七年五月二十七日であります。其の後に於ける信長が近畿を平定し中國に師を出し彼れの一生を通じて最も得意ある時代でありましたが此紀念日の満三週年、月も日も同じき天正拾年五月二十七日こそわやがて明智光秀が逆意を起して所願を愛宕に祈り「時わ今あめが下しる五月哉」と口吟んだ其の日なのであります。かくて六月二日信長の最後に至る迄の歴史を語るの要もありません。然し茲に特に皆様の注意を願いたいこととわ、信長が自分の死場所を殊更に日蓮宗の本山本能寺に選び、

猶信忠迄が同じく本山の妙覺寺に宿つたこと。安土法論に於ける差配役織田七兵衛並に當時の奉行の筆頭管谷九右衛門に至る迄同じ枕に討死して謗法の罪の恐るべき事も後世に誠めて呉れた一事であります。

題日親聖人

遅日無心火不能焼と誦する聲 (正氣)

題信長最期

謗法の罪濠よりも深し本能寺 (正氣)

惡世の衆生わ我慢偏執名聞名利に著して彼れが弟子となるべきか、彼れに物お習わば人に賤しく思われずらんと不斷惡念に住して惡道に墮つべし。

(日蓮)

彗星語

◎予わ彗星。世の人の時流に調和し圓轉滑脱たることは宇宙に圓お畫いて周行する星體に比せば余わ正しく去來知るなき彗星なるべし。一點の光彩尾お曳く幾萬里たるお得ば幸也矣。

◎燕わ南國の鳥にあらず。或田舎の老翁余に語りて曰く、學校にてわ燕わ南國の鳥なりと教うれども然様にも思われず。雖わ皆日本にて育ち秋となれば親子諸、共南え行くものなり、さすれば生れ故郷わ日本という方正しかるべしと。誠に一理ある看察なり。學術上の事わ別として、海外より來るが故に必外國の鳥なりと思わぬ所にこの老翁一見識お有す。

◎醫學の進歩と蠻人。近世醫學の發達わ驚嘆に堪えざるものあり。されど藥物療法に加うるに心的療法お以てせば更に可なるものあらん。醫術の進歩なき蠻人なりとて悉くわ天折死滅わせざるなり。是果して何の力ぞ。若き日支那内地お遊歴したることあり。彼等の耳朵にわ日本の仁丹、寶丹わ不老不死の良藥

の如く響く、されば腰の痛むもの頭の痛むもの甚しきわ足の痛むものも吾等が恵みたる仁丹の幾粒かにて即時に快癒するお見たり。

天わ要なきに生命お断たず、自然に順應すれば必しも短命わせじ、地球わ人類の生存し得べき状態にあり。然して吾等わ生くべき機能お有す。

◎天壽。天壽とわ物夫れく、に定まれる生命おいう。彼の薬の如きも俗にヤクおするとして一定時の後わ薬としての效力お失うものなり。製薬業者が指定せるが如く密閉せられたるまゝ冷暗所に保存するも其の效力永久的ならざるわこれ天壽なり。天壽の研究、こも亦面白き問題なるべし。天壽お果さずして中道に倒るゝものわ人力によりて更に佛の御力によりて救わるべきや疑なし。

◎三世とわ如何。世にわ唯現世のみお知りて前世おも未來おも信ぜざる徒あり。彼の輩毛蟲の一生お見る時如何なる解釋おか下さん。見るだに恐しき青葉がくれの毒蟲わ己が過去に於いて今日の自己の境遇よりも異りたる状態にありて小さき殻の中にありたる事わよも知らざるべし。まして其の後に於いて繭の内に閉じ籠りて手も足もなき不自由なる蛹の一生お終え、やがて大空高く舞い

上りて花に戯れ露に眠るやさしき胡蝶の一生の如きわ夢にも想いよらざるべし。吾人わこの毛蟲の一生に於いて明に其の形態境遇の大變遷お認むと雖も其の間魂魄の入り變るが如きお信せず。若しそれ同一の卵殻と毛蟲と蛹と胡蝶とお一時に連れ來りて汝等わ皆同一物なりといわんに彼等と雖も是お信ずる能はざらん。俗語に曰く

可愛く、蛙の子親にも似いで

尻尾が生えて。

◎火星と人類。火星上に生物の棲息するや否やわ常に天文學者間の大問題たり。吾人わ其の當否お知らざれども彼等學者の論旨わ常に空氣の有無濃薄の如何にあり。單に空氣によりてのみ生物わ生存し得ると考うるわ凡人が神佛の實在お疑うに似て陸上の動物が水中に魚介あるお察せざるが如し。平面上お行くものわ立體面 お行くものとその交又したる時にのみ相會うことお得、然も其の機會たるや多くわ最初のものにして最後のものならん。世の學者の所説の狹隘にして自家の机上寸尺お出でざるわ笑うにたえたり。彼等わ自己が胎兒とし

て羊水中に浮遊したる事おも疑うならん。

◎玉石混淆。 ○○政黨わ醜惡の巢窟なり。然も其の黨中猶君士人あり、誠に玉石混淆といつべしと。石わ玉よりも固し、玉石混淆して玉傷くなくんば至幸。◎金欄の切。 予未だ政談演説なるものお聞かず。されど紙上に於いて常に名家の迷説に接するお得。世の反對黨派に對する攻撃の如き、時に採つて以て修辭となすべき佳言名句あり。然も熟思すれば何等の收穫なし、只金欄の切々の如く晒木綿一尺手巾の用お辨ずるに如かず。

◎新しき村。 近時新しき村等と稱して熱帶地方の人種が水草お逐うて移住するが如き生活お試みるものあり。彼等わ規矩ある生活お厭うて群羊の如き生活お欲するものか。無學の民ならば敢て問わず。是等の多くが知識ある帝國臣民なるに於いてわ筆誅せざるべからず。彼の徒わ正しく帝國の羈絆お脱せんとするものにあらずして何ぞや。

◎神經とわ。 一口にあの人の病わ神經なりなどいへども其の神經なる一語の裏に無限の意味お含まずや。唯物論者も亦靈妙なる心理作用の存在せるお日常

に默認せるなり。

◎星辰の運動。 秋夜戶外に立つて天お仰げ、星光爛々として其の數計るべからず。然も其の運行節度あつて些の滯りなきお思えば宇宙の廣大にして秩序の整然たるお知るお得ん。われ人此の悠久無限の天地に介在して短き一世お闘争の間に過ぎんとす、悲しい哉。

◎無限の道程。 盛夏一日の閑お偷んで輒に遊び夜に入つて歸る。甲板の上に轉輾すれば二十八宿星座燦として海上波穩なり。今年九才の女兒突然問うて曰く「般わ止まれるか」予曰く「何が故にかくいふぞ」と。兒曰く「星お眺めつゝあるに更に動かず」と。宜なる哉此の言、無限の道程に歩お運ぶ者の百歩わその一步と果して幾何の逕庭おか存する。世の哲學者流の研究も亦この類のみ。暫く默して時お待て、やがて船わ尾道に着かん。

◎蟻物語。 初夏の午なりき、讀史に倦みたる予わ庭に降りて泉水のほとりに停ちぬ。何心なく見れば片方の石垣お登り行く一疋の小蟻あり。餌お漁る爲なるべし。目塗りしたる高き石垣なれば何所まで行きたりとて餌のあるべき筈も

なし。偕も無駄骨打るものかなと見る内に一陣の風吹き來つてあわやと思ふ暇もあらせず小蟻わ泉水の中に落ちぬ。彼等が爲にわ千尋二千尋なるべし。

僅に巾二間計りの小池なれども吾等が玄海の眞只中に放り込まれたるにも譬えん。身お腕ウデく内に魚等出で來りなばそれまでの命なり、可憐に思いて指おのべて拾い上げぬ。更に足許お見れば一疋の死せる毛蟲お己が巢に持ち歸らんとて惱める四五疋の小蟻あり。頭お振り肘お張り力のあらん限りお盡せども右に率くもの左に率くものさてわ後に率くものさえありて逆も動くべくもなし。巢迄わ猶四五尺の距離ならん。戯れに木切おとりて巢の入口迄運びやれば見る見る蟻わ數十疋となりて難なく巢の中に持ち去りぬ。

かくて其の夜の事なりき。吾獨り靜に庭に降りて晝間の蟻の巢の傍にたちて聞くともなく耳お聳つれば一疋の蟻わさも感に打れたるが如き面持にて次の如く語り出でぬ。「長生すれば不思議な事にも遇うものじや、皆さん聞いて呉れ、オレわ今日こそ久し振に何かお手柄おと思つて危険お冒して數千尺の斷崖によじ登つて行つた。所が途中で大嵐の爲に大海の眞只中に吹き落されてどちらお見

ても陸地の影さえ見ええず愈々こゝが年貢の納め所かと泣いて居た。すると突然大空から何とも知れぬ大きなものが舞下つて來てオレお拾い上げて呉れたがこれが世にいう佛様の御加護なのであらうと。座にありし他の一疋の蟻わ徐に頭おもたげて「イヤ／＼不思議わオ前計りでない日頃の不信心も今度こそわ思いあつた。生れてこのかた今日の様な勿體ないめに遇つた事わない。三四人の仲間と大きな獲物お捜し當てて運搬に困り果てて居た矢先何物にか獲物ぐるみ大空に掴み上げられて氣も遠くなる思いで一心に神様お念じて居るとやがて又大地の上に置かれた。それがまた所もあらうに吾々の棲家の門口なのだ。これに比べたならオ前の話などわ問題にならぬよ」と。

一編の蟻物語わこれにて終る。吾々の日常の働き振りも神佛の眼より見れば正に此の如くなるべし。人間の存在のみお知りて神佛お排斥する不信の輩わ以て箴となすべし。

夕されば閉さるるとも知らなくに

おり戸に巢喰うさゝがにわ哀れ。(正氣)

◎賣名と匿名。麗々しく世界的事業おなすものお賣名の徒なりと罵るものあり。されど愚見お以てすれば敢て然らず。世にわ匿名お以て慈善行爲おなすものあり。吾人わ其の何の爲なるかお察するに苦しむ。此の輩の多くわ匿名にして更に匿名なる事の社界に傳えられん事お願うものにして賣名に足お加えたる徒なり。若し然らずんば他に比較して自己の寄附金が輕きお恥ずるに因るか又わ更に大なる寄附金の強要お懼るゝが爲ならん。

人の此の世に生お享くる其所に大なる意味あり。盗みたる金ならば寄附しても匿名の必要あらん。寄附行爲わ自己の特權なり。寧ろ進んで名お明にせんこそ道理ならめ。寄附金に匿名お欲するが如き輩わ須く帝國の戸籍面より自己の姓名お取り去れ咄。

◎至上わ私情のみ。社界が認めて知識階級なりという人人の間にも近來「戀愛至上主義などいう輕便語お發明し妻子ある博士薄志と書くべきか」にしてえせ歌よむ女と關係し又わ白蓮物の人妻と不義お働き其の他華族の息子にしてオデンの屋の女と同棲する事など流行せり。同棲という一語既に永久的のものにあらず亦人間的にもあらず禽獸的なり。尤も禽獸と雖も夫婦の關係わ猶嚴として冒すべからざるものもあればそれ以下なるべきか。

男子の心身お捧げて僅一人の女に満足お與えたるお以て救うたり等というわ救の字義に對して片腹痛き次第ならずや。救うとわ同棲という事にわあらず眞に救世の志あらばオデン屋の娘にわオデン屋の娘に相應わしき救濟方法お講ずべし。斯くして一人二人十人百人乃至千人得べくんば全世界の女人お救え。神より授りたるあた得がたき此の男一疋飢えて食お撰ばざるが如く捨て賣りにわしたくなきものなり。木伊取り木伊に成る譬とまでわ行かずとも救う等といいて己が性の満足お充す男女わ夏の日に蠶蠅の雌雄が日向にて戯るゝに似たり。

◎義士の夢。一夜吾れ柄にもなく四十七士の内に加わりし夢を見たり。つらつら思ふ様多少の手傷わ負うとも生命に別狀なく仇の討てる事なれば吾ながら心勇みて一行に従えり。さて又道にて思い返すにわ主君の仇討とて男兒と生れし甲斐にわ是に上こそ譽わなき事ながら後々切腹の一條お考うれば死後に殘る子供の事など心にかゝりて悲愁に堪えず果てわサメザメと男泣きに泣きぬ。

斯くて夢破れたり。爾來義士に對する尊崇の念愈切なるものあり。一口に壯烈なり等といふ形容にてわ義士の萬分一も現わすべくもなし。

◎乃木將軍の死。明治大帝の後を追うて乃木將軍の自刃するや所謂學者の高論卓説わ紙上に陳列せられたり。讚美するものわ敢て問わず。當時西洋思想に捕われたる士及び耶蘇教徒の所説わ一樣に自殺の不可お唱えたり。然も其の末段に於いて乃木將軍の場合わ例外なりと結び。其の間徹底的に不可お唱えたるわ谷本富氏一人のみ。可否の論わ暫く措く。吾人わ例外なる一語によりてお茶お濁したる卑劣漢よりも寧ろ谷本氏の勇お稱すると共に如斯自信なき學者の所説が往々にして社界に重きおなすの現状お痛嘆す。

◎獸欲か人欲か。人類の無法なる色欲遂行お名付けて獸欲という。若し禽獸にして人語お解しなば一大侮辱なりとて抗議すべし。今日人類が行うが如き不自然なる欲望の遂行わ獸類に於いてはお見ず。一生お通じ四六時中此の爲に妄動するものわ生物中唯人類あるのみ。嘗て深くアフリカ内地に入りて高等猿類につきて研究したる人の話お洋書中に見たる事あり。彼等わ一夫一婦の制嚴

としてもしはお犯すものあらば同族相集まりて死の極刑に處すと。

吾々わ何お以て萬物の靈長といひ得るか。

◎社界主義者の預金。常に政府お罵り資本家お呪える人あり。一日予に問うて曰く、何れの銀行が最も堅實なりやと。此の人平素の主張よりすれば資本の最も大にして収益最も多き所謂確實なる銀行其物こそ正しく彼等呪咀の標的たるべきなれ。然も事實わさにあらず、此の人最近に得たる收穫の或ものおこれに預け入れんとするなり。何等の骨稽ぞ、主義わ主義なり、實際わ實際なり。世の何々主義等というものの多くも亦此の絆お出でざるべし。

○頑固ということ。母曰く今日わ雨なるべし傘お持ち行くべしと。父曰く雨など降る天候にわあらずと。通學の兒童わ獨り惱めり。母重ねて曰く今日わ女中も不在なれば後より持ち行く事もならねば是非携え行くべしと。父曰く只一人の子供に傘の一本位わ母親が後より持参しやりたりとて何程の事かあらんと。遂にわ夫婦の諍となれり。父曰くオ前程一我意な者わなしと。母わいうあなた程頑固なる人わなしと。

果して何れが頑迷なるにや。父親が母親の言に委するも可なり。母親が父親の命に従はゞ猶更可なり。頑固という言葉相対的なり。此の場合母が父の言に従はゞ頑固などという言葉わ出でぬ筈なり。二人の者何れか一方の顔お立てざれば家庭わ常に平和なるお得ず。吾人わかるが故に男表女裏お説き更に絶対主權お高唱す。

◎平民主義と尊嚴。

維新前に於いて士分と平民との距離餘りに甚しかりし反影として、平民主義なる語の擡頭せるわ無理からぬ事なり。なれど貴族が殊更に平民主義お銜わんとするが如きわ頗る考慮お要す。中華民國の革命成りて某氏假大統領として南京に入るや先各省の代表お招致す。此の日彼がツメ襟姿にて議場に出でたるわまだし、自己の座すべき席もなくマゴズキたるに至りてわ興醒むべし、此時より鼎の輕重わ自ら定まる。

名流の野良息子共が普通人の行爲なれば一顧にも價せざる事お仕出かして世間より平民主義なり新思想家なりとハヤされて日に彼等の品位お低下せしめ行くわ誠に寒心に堪えず。彼等わ「あんな内の若殿」といふ家柄尊重の因習的觀念、即ち舊思想あるが故に自分の輕卒なる行爲も猶社界の齒牙にかゝる事お察せざるなり。彼等の謳歌する新思想の爲めに舊思想の亡ぶる時わ即ち彼等の威信が社界的に破滅するの日なり。心わ常に平民主義たれ、されど禮節と威儀とわ辨えざるべからず。

◎順逆の同情。 等しく同情と雖も順境に發したるものと逆境に發したるものとわ其の間自ら差別あり。

逆境に發したる同情わ動もすれば反抗と嫉妬とお伴い社界お毒することあり。彼等わ虐げられたる自己の體驗より同病相憐むの諺に漏れず、同情の念に燃ゆること至烈なる半面に於いて常に不満お懷くものなり。

何不自由なき王家に生れて衆生濟度の大願お發したる吾釋迦の大慈悲と一野婦の私生兒と生れて救世お説きたる彼れキリストの同情と其の教義の裏面に含まるゝ相違お如何せん。長者の萬燈貧の一燈とのみの心持お以て世態わ觀ずべきにあらず。

◎犠牲的精神。

人情と責任觀念(犠牲的精神)とお有するが故に人類の價值わ

存するなり。今日の如く萬事自然主義本能主義を讚美するに至りてわ人類の終末も遠からざるべし。新家庭の哀話の傳わるや一も二もなく舊習に捕われたる結婚の罪なりと指摘し、其の他日常百般の出來事にして間接にも古來の道德節義より發したる悲惨事わ其の因縁する處の一半が現代社界の罪にあるを問わず舉げて誤れる吾が固有道德の禍するが如く判ずるを酷なり。自由主義よりいへば年頃の男子が女を求め、妙齡の女子が男を慕うわ人性の本能なり、かるが故に何等の關涉を加えずとならば女兒を持つ親わ須く女學校卒業と共に昔日の武者修業の如く旅費を與えて本人おして適當なる夫を選ばしむべし。されど望みて盡くる事なきわ人類の欲望なり。彼等もし現在の夫よりも優れたる男子を發見したる場合本人の自由意志によりて鞍替せしむるも元より異論なきを得るか。自由といふ本能というも其の程度果して如何。

暑熱殊に烈し。汽車に塔じて旅す。列車内わ殆ど立錐の餘地もなし。かゝる際に椅子の一端たりとも得たきわ人情の自然なり。一人の壯者子連れの老人の爲に立つて席を譲る、何等の人情美ぞ。本能よりすれば壯者も立ちたき事わなか

るべし。汽車賃を論じて乗車の權利をいへば老人わ無賃の子供だけ餘分の者お引き具し居れり。

互に遠慮なく本能を發揮し權利を主張せば列車の内わ立所に修羅場と化し終らん。翻つて己の體軀をみれば短身瘦瘠半正にも償せず。然も筋骨隆々鬼の如き荒くれ男の間に伍して何等の危懼なく動作し得るものわそれ何の賜ぞ。

◎新小説と無政府。 兒島高德の史實の疑わるゝわ小島法師の筆になれりという太平記の史的價值によりて定まる。後世史家の手お煩わすものわ其の時代に成る稗史小説なり。今日の活動寫眞といへば誰しも其の場面として海濱と公園と病院とお直に想起するが如きわ規模の小なる吾國の營業者としてわ止むなき事なれども、彼の明治大正の御代に書かれたる一流作家の所謂新時代を描寫せりと號する作物の全部が殆ど無政府なるにわ驚かざるを得ず。彼等の作中の出來事わ到底現代の極東日本にわ見得らるべきものにわあらず。如何なる犯行にも警察の手を借らざるなり。貴族の令夫人が誘拐せられたる愛兒を尋ぬる爲に單身家を出で、途中にして悪漢に監禁せらるゝが如き、支那内地若くは舊幕時代

にあらざれば想像だにかざる事件なり。新小説とわ名のみにして出場の人物の服装が現代式たるに過ぎず事實の内容に至りては舊中の最も舊なるものなり。今後百年是等の小説を讀まんとし明治大正の文化を如何にか考察せん。これ現代を毒するに止まらず惑を千萬年の後に残すものなり。

◎産兒制限論について。奇しき新しきお好むわ人の情なり。さりながら今日の如く事々に舊を棄てて新に趨るわ考物なり。新マルサス主義といえは如何にも高遠なるが如きも何も變りたる事にわあらず。物わ萬事廻りクドクいわざれば歓迎せられざるが現代なり。婦人の分際として憶面もなく斯くの如き問題お口にすゝわ思わざるも甚しといふべし。彼等徹底的に此の問題を討議せらるるも厚顔座に堪え得るや否や。要するに一種の避妊器具を賣り廣むるの手段にあらずんば墮胎乃至殺人罪を奨励すというに過ぎざらん。子實とわいい條何人と雖も一ダスにも近き子供を欲せざるなり。人並の才能體格を有して成人すべき保證さえ得れば男子一人女子一人にても事足れり。サンガリの兩親と雖も斯の如き勝手なる熱を吹く娘とわ知らずして生み落したるなるべし。

彼等産兒制限を稱道する以上わ此の保證を與うる神佛にも等しき大威力を有せざるべからず。新マルサス主義をサンガリに問わんとするものわ先吾が貝原益軒の著書を讀む。

余の妻初めて妊身するや五ヶ月計にして非常なる疾患に冒され爲に予を醫師と胎兒の處置につきて計りたることありき。其の兒今や十歳學校に於ける成績も常に首位にあり彼れが無邪氣なる顔を見る毎に當時の余の一言を憶うて漸汗背を濕すものあり。

◎特殊部民。宇宙の星辰より地上の山河に至る迄自らなる大小の低色々の差別あり。是正に自然なり。吾國にわ上に皇室あり。これ國民の宗家なりとす。然して其の間過去の歴史あり最近の事情ありて皇室を中心として親疎の別生ずこれ家柄というものの唱えらるゝ所以なり。然れども過去の誤れる因習の爲めに虐げられたる人人に對して生活上の問題に於いてする溝渠を設けんとするが如きわ正に邦家の前途を誤るものなり。

頃者一般民衆を貴族内閣等と呼んで華族に對して徒に反抗するの風あり。吾

が國の華族制度についてわ稍飽き足らざるものありと雖も何等其の存在を呪咀するの必要あらんや。彼等華族を呪う者と華族との距離を、彼等と所謂特殊部民なる人との距離と何れが遠きかを一考せよ。彼等わ頭上を見る事に敏なれども弱者を思ふ事に疎し。彼等華族に對して不満を抱くならば其の以前に於いて自分等が理由なき差別をなせるが爲に常に泣ける人人なきかお願ひよ。

日蓮わ安房の國東條片海の石中の賤民又旃陀羅が子也。威徳なく有徳のものにあらず云々。

◎水力電氣と火力電氣。水と火とわ其の性相反す。然も電氣を發する原動力となる點に於いて相同じ。翻つて醫藥の疾病に及ぼす原理を考みるに譬えば頭痛に際して鎮靜劑を服用したればとて藥が直接に頭の内部に入りて治療の效を奏するにわあらず、胃に入り腸を通じて血管を刺戟し或わ神經中樞に作用して其所に或る力を發せしめ以て疾患を治療するものなり。この力を生ぜしむる原因の如何を敢て問題にあらず。是予が心的治療の忽にすべからざるを唱うる所以なり。

◎裸體畫と彌次代議士。人類には服裝の禮儀あり、猿にわこれなし。人類が裸體となれる場合わ入浴の際に限る。故に人類の裸體を畫くわ猿を畫くものが猿芝居の猿を描寫するに似て誠に稀有の場合ならざるべからず。然も近來裸體畫の流行する所以を如何。

自己の賣名の爲に議會に於いて彌次馬を働くものあり。これ人格の最も陋劣なる醜輩なり。人類の異性に對する弱點乃至わ好奇心を利用して如何わしき畫題を採り或わ出品中の繪畫を汚損し以て世間の問題を惹起して自己の名をなさんとする卑劣漢を何等此の野次馬代議士と選ぶ所なきなり。

吾れ少年の頃早稻田邸に於いて天野爲之博士より文章に關する注意を聞きたる事あり、鬼を畫くわ易く人を畫くわ難しと。今にしてその至言なるを思ふ。鬼ならば手の指一本不足すとも顔の形狀奇異なりとも問題を生ぜざるべし。裸體を畫き又わ異様の畫題をとるものわ畫家の最も未熟なるものと知るべし。

◎洋樂通。等しく亞米利加通と雖も通字に三様の意義あり。一わ眞の通人にして二わ米國に度々通うが故の通う人、三わ米國を一度通りて返りたる亞米

利加素通り人なり。

吾が知人の内に頻りに洋樂通お振り廻す一婦人あり。此の人更に外國語お解せず、歌詞お知らずして音樂お愛するわ夏日林間に蟬お聞くと異なるなけん。聲樂家として世間に持嘶さるゝ一婦人あり、然して美人なり、他わ多く語るの要なからん。

外國の人わ多く奏演者に背お向けて音樂お聞き日本人わ演奏者の顔と所作とお穴のあく計りに見ざれば満足せず。眞の通人たるまた難い哉。

◎山縣公と雪嶺博士。西南役に於いて最初山縣公の隆盛に與えたる書わ誠に情理お盡せるものというお得ん、然れども隆盛が重圍に陥るにあたりて是れに一日の猶豫お與えて軍門に降るべきお促したるわ甚だ慘酷なり、以て山縣公の性格お推すべし云々とわ雪嶺博士の山縣公お評せる語なり。吾人おして言わしむれば此の批評こそ實に慘酷というべけれ。

山縣公の隆盛に與えたる書わ近代稀に見る友情の發露なり。出師の表お讀んで泣かざる者が不忠ならば此の書簡に對して目醒めざりし隆盛わ無神經者なり。

然も此の無神經者に對して最後の日迄舊誼お忘れざりしわ山縣公なり、何お以てか酷というお得ん。然りと雖も人生あらゆる情理お盡して猶用ゐざる頑迷の輩に至つてわ最後の鐵槌お加えざるべからず。不貞の女に何時迄も未練お殘して逐い歩くわ男子の面目にあらず。

如何なる辯護お以てするも彼れ隆盛わ國賊なり。當時楠正成が餘りに多數なりし爲と彼れが敗れたるが故に尊氏の如くいわれざる迄なり。彼れと親しみある人が廟堂にありたるが爲に建てられたる上野の銅像わ何等意義なきものぞ。

◎新しき詩人。歌の拙きお葱という、これ節なきが故なり。かゝる人わ歌お唄うにあらずして歌お言うなり。文と詩との區別わ其の語調の如何による、韻お踏むが故の詩歌なり。物新しからざれば人の目お引かず、物異様ならざれば人の興おそゝらずとするわ趣味の最も低級なるものなり。今日の所謂新しき人人の詩歌お讀む時吾人わ特に此の感深し。措辭の變體お以て名吟の如く思惟せるものならん。如何に自由不羈お主張すと雖も物事にわ何等か一つの様式なかるべからず。吾國の韻文に五七の調お棄てゝ猶歌俳句の名稱お冠するわ僭越なり。

俳句と文句とわ自ら異なる。かゝる人わ詩歌お歌うにあらずして文句お綴るなり。

九六

語調の等閑視せられざることわ彼等新しがり屋と雖も語路の悪しき西洋語わ採らざるに見るも明なり。コスモス、ダリヤとわいえどもスターよザイオレッツトよ(星よ董よ)とわいわざるが如し。

◎法律の運用。

法律わ其の國の宗教道德乃至わ風習お基礎として編まれたる人爲的のものなり。故に是お取扱うものわ常に此所に留意せざるべからず。然るに今日の司法者わ法文のみお以て金科玉條の如く思惟しこれが運用お誤り却つて社界お毒するもの少からず。法規に違背せざれば何事おなすも問題にあらずとするわ大なる謬見なり。極端なる例お以てせば國法に許すが故にとて國民の大半が外國に歸化するも可なるか、國字に制限なきが故に如何なる文字お姓名に使用するも支障なきか、更に又實印に關する規定なきにより直徑一尺のものお使用するも可なるか、如斯數え來らば枚舉に遑なからん。被告の某社界主義者が檢事の論告に當り從來の慣例お破りて着席のまゝこれ

お聞きたりとて問題お起したることあり。主義者わ論ずる者が野暮なり。唯これお辯護したる某無法學博士に至りてわ其の心事お憫む。辯護士の前に罪惡なし嘆ずべき哉。

此の際公判に關する細則お設けずんば遠からずして被告わ壇上に滔々たる熱辯お振り判官わ被告席に萎縮謹慎してこれお拜聽せざるべからざるに至らん何々。

○學者と記者と辯護士。

社界の木鐸として重きおなし最もよく世道お啓發善導し然も亦最もよく人心お惑わし易きものわ以上の三者なり。學者わ肩書により記者わ新聞紙により辯護士わ理窟屋なるによる。予の知れる一辯護士あり辯論の依頼お受くるも自ら判断して不當なりと思ふものわ一切其の囑に應せず。これ眞の辯護士なり。棺お鬻ぐものわ年の疫ならん事お欲すと辯護の爲に辯護おなす輩わ以て頂門の金椎となせ。

此所に一貧者あり、一富者と法廷に相争う。無學なる貧者にとりてわ辯護士わ救の神なり。彼わ自己の行爲わ事の善惡お問わず舉げて此の辯護士の質問に應

うるならん。かゝる場合相手の富者の金の力と辯護士の人格とを同時に考うる時吾人わ弱者の爲に危懼に堪えざるものあり。

◎草根木皮。地球が人類の生活し得べき條件を具備するが故に吾人わ此の土に生る。これ予が醫藥として草根木皮を推奨する理由なり。予や身體強健なりというを得ず故に強壯劑として知らるゝ新藥を殆ど試用し盡したり。然して其の結論に至りてわ人類保健の要素としてわ如何なる妙藥も充分なる日光の下に新鮮なる大氣を呼吸し清淨な水によつて自然が與うるものをお攝取するに若かずというに歸着せり。脚氣病を餘りに清鍊せられたる白米を採る事によりて發し、蒸溜水を却つて日常の飲料に適せざるに見るも此の結論を立證せらるべし。麗しき一個の林檎と雖も其の外皮を剥ぎ去らば寸時にして酸化變色すべし。これによりて見る時わ林檎として其形態を維持し得るものわ吾等が常に攝取する部分にあらずして寧ろ取り捨てらるゝ外皮なり。これやがて又吾人が人間としての形態を維持する上に必要なる食料にわあらざるなきか。ビタミンを論議するより先に這般の道理を闡明するも亦重要事ならん。これ予が自然を攝取せ

よと勸むる所以なり。

◎美人觀。

盲人にわ聲がよければ美人なり。

皮一重心を包む迷いかな。

◎囚われたる靈術。一日靈術を修したる人と共に同じ列車に入りたるに多數の旅客横臥せる爲空席なし。術者わ直に旺んに思念を送りて之を起さん事に努力す。予曰く寧ろ聲を掛けて醒さしむるに若がずと。世の學術に囚われたる輩わ皆かくの如し。

◎國勢院。國勢の調査甚だ可なり。然れども宗門の調査を等閑に付したるわ日本國民に思想なしというに等し、國勢院の同人わ加茂川の水と共に爲政者の意の如くならざりしものにわ叡山の一僧徒ありし史實を學ばざりしにや。

(終り)

本書の上梓に關してわ日彰館中學校時代よりの莫逆の友たる隨行
琢三君の斡旋に負う處尠ならず茲に特筆して感謝の意を表す。

著 作 權 所 有

大正拾四年二月十五日印刷
大正拾四年二月二十日發行

〔定價金八拾錢〕

著作兼
發行者

廣島縣尾道市土堂町貳七八番地
日蓮宗 村 田 四



印刷者

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
鷺 見 九 市

發賣元

東京市神田區表神保町二番地
株式會社 文 館
電話大手五九一九番
振替口座東京一三五番

侯爵 鍋島直大閣下題
東亞同文書院長 服部宇之吉先生序
文學博士 津

正氣 村田四郎著

倭寇

定價金 貳圓
送料金拾貳錢

(大阪朝日評)火の如き侵掠の跡は著者にとりて一箇の謎たり宿題たり、在支三年は此宿題解決の爲に費され即ち此冊子となりぬ。自然の發作、外寇の反動、内訌の餘波、慣性運動、掉尾の一振の五期に分ち内海賊の歴史より嘉靖の焚掠に及び狹むに侵略年表五を以てす。著者江浙の會遊「十七八に寝て離る」はたゞ萍の水ばなれよの「と倭寇の流風「全浙兵制」に残れる俚謠を引き錢塘江畔の平蕪に當年を偲ぶあたり、刺ある薔薇の如き筆致なり。

近刊 信仰の英雄加藤清正 村田四郎著

511
87

終